

拡大教授会

○ 報告事項

1. 総務委員会報告
2. 研究科長・学部長・研究所長合同会議等報告（総A1号）（総A2号）
3. 全学環境安全衛生管理室等会議・事故災害報告（総B2号）（総B3号）
4. 各委員会報告（教B1号）（教B2号）（教B3号）（教B4号）（経B1号）「高校生と大学生のための金曜特別講座」
5. その他
 - ・2023年度役職者について（総B4号）
 - ・研究科ロゴマークの使用について
 - ・TLPパンフレット2023について

○ 議題

1. 2022年度教授会慶弔費支出報告（総B5号）
2. ファカルティハウス規則の改正案について（研B3号）
3. 教養学部各学科等教務関係内規改正について（教B5号）
4. 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部とインドネシア教育大学との学術交流協定の締結について（教B9号）

教授会

○ 教員人事

講	師	報	告	1件
准	教	報	告	5件
教	授	報	告	8件
推	薦	名	誉教授	7件

計21件

委員会関係

教務委員会

- ・令和5年度入学者数について（教B1号）
- ・令和5年度年度進学者数について（教B2号）
- ・2023年度Sセメスター（S1・S2ターム）定期試験について（教B3号）
- ・2023年度Sセメスター（S1・S2ターム）成績報告について（教B4号）

財務委員会

- ・2023年度における預託金制度について（経B1号）

教育研究経費委員会

情報基盤委員会

入試委員会

教養教育評価委員会

学生委員会

三鷹国際学生宿舎
運営委員会

図書委員会

前期運営委員会

後期運営委員会

建設委員会

環境委員会

防災委員会

その他

社会連携委員会

- ・2023年度Sセメスター「高校生と大学生のための金曜特別講座」について

拡大教授会および教授会議事要旨(案)

日時 2023年3月9日(木) 15:00~17:12
場所 Zoom会議
出席者 228名

議 題

○ 報告事項

1. 総務委員会報告

研究科長から、3月9日開催の総務委員会について説明・報告があった。

2. 研究科長・学部長・研究所長合同会議等報告

研究科長から、2月21日、3月7日開催の研究科長・学部長・研究所長合同会議について、資料(総B2号)(総B3号)に基づき説明・報告があった。

3. 各委員会報告

- ・柳原大教務委員会委員長から、令和4年度前期課程退学命令対象者について報告があった。
- ・研究科長から、前期日程試験の実施について報告があった。
- ・梶谷真司後期運営委員会委員長から、学生の退学命令について報告があった。
- ・田村隆環境委員会委員長から、枝垂桜説明板設置と山桜三本の植樹予定について報告があった。

4. その他

- ・清水晶子副研究科長から、一高記念賞及び総長賞受賞者について資料(学B1号)に基づき説明があった。
- ・受田宏之教授から、東大駒場友の会「新入生保護者と教養学部長との懇談会」について説明があった。
- ・星埜守之教授から、教養教育高度化機構「アクティブラーニングニュースレター」の発行について説明があった。
- ・網野徹哉教養教育高度化機構長から、教養教育高度化機構シンポジウムについて説明があった。

○ 審議事項

1. 東京大学大学院総合文化研究科等における育児休業等の長期取得のための支援に関する申合せの一部改正について

研究科長から、資料(総B4号)に基づき説明があり、審議の結果、了承された。

2. アドバンスト文科運営委員会規則及びアドバンスト文理融合運営委員会規則について

月脚達彦副研究科長から、資料(教B1号)に基づき説明があり、審議の結果、了承された。

3. 令和4年(2022)教養学部卒業生数について

梶谷真司後期運営委員会委員長から、資料(教B2号)に基づき説明があり、審議の結果、了承された。

4. 教養学部各学科等教務関係内規改正について

梶谷真司後期運営委員会委員長から、資料(教B3号)に基づき説明があり、審議の結果、了承された。

5. 2023年度役職者について

研究科長から、資料(総B5号)に基づき説明があり、審議の結果、了承された。

・研究科長室メンバー交代者6名の紹介と挨拶があった。

(真船文隆副研究科長、和田元副研究科長、郷原佳以総長補佐、内田さやか研究科長補佐、池田昌司研究科長特任補佐、館知宏研究科長特任補佐(欠席))

・研究科長から、退任の挨拶があった。

・退職予定教員の紹介と挨拶があった。

(藤井聖子教授、長木誠司教授(欠席)、三浦篤教授、石田勇治教授、橋本毅彦教授、加藤光裕教授、久我隆弘教授、GALLY Thomas Kilburn 教授、小河正基准教授(欠席))

・事務部幹部職員異動者の紹介と挨拶があった。(小寺孝幸事務部長)

以下、教授会構成員対象の議題です。

教授会

教員人事に先立ち、市野川容孝教授から、佐藤安信氏の案件に係る教職員等有志による大学本部への再調査の要請に関する説明があり、質疑応答・意見交換を行った。当該要請について、教授会として積極的な反対意見は出なかった。

○教員人事

准 教 授	提 案	2 件
	報 告	2 件
教 授	報 告	5 件

計 9 件

以上

議題及び資料

01	学内外情勢 (資料1) 学内外情勢	総長
02	リーガルマネジメント体制の構築等に伴う規則等の制定及び改正 * 審議 (資料2) 2-1:東京大学リーガルマネジメント規則(案)、2-2:東京大学コンプライアンス基本規則の一部を改正する規則(案)、2-3:法務本部内規の一部改正について(案)	今泉理事
03	国立大学法人東京大学における研究インテグリティの確保に関する規則の制定 * 審議 (資料3) 研究インテグリティの確保	齊藤理事
04	東京大学学部通則の一部改正 * 審議 (資料4) 東京大学学部通則の一部を改正する規則(案)	太田理事
05	東京大学学部通則の一部を改正する規則の一部改正 * 審議 (資料5) 東京大学学部通則の一部を改正する規則の一部を改正する規則(案)	太田理事
06	特定の業務に本学教職員に従事させる場合の取扱いについての一部改正 * 審議 (資料6) 特定の業務に本学教職員に従事させる場合の取扱いについての一部改正について(案)	津田執行役
07	全学共同利用スペースの施設使用料改定 * 審議 (資料7) 全学共同利用スペースの施設使用料改定	相原理事
08	東京大学アタカマ天文台口径6.5mTAO望遠鏡に関する国立天文台との覚書 * 審議 (資料8) 東京大学アタカマ天文台口径6.5mTAO望遠鏡に関する自然科学研究機構国立天文台と国立大学法人東京大学の協力についての覚書(案)	齊藤理事
09	2023年度光熱費見込額 * 報告 (資料9) 2023年度光熱費見込額について	大久保理事
10	オンサイト自家消費型太陽光発電設備の設置(I期) * 報告 (資料10) ～UTokyo Climate Actionの推進～オンサイト自家消費型太陽光発電設備の設置(I期)について	大久保理事
11	法務戦略(強固なリーガルマネジメント体制の構築に向けて) * 報告 (資料11) 第1期法務戦略(2022-2026)強固なリーガルマネジメント体制の構築に向けて	今泉理事
12	学内における学術団体の運営業務に関する取り扱い * 報告 (資料12) 学内における学術団体の運営業務に関する取り扱い(通知)(案)	今泉理事
13	令和4年度学生表彰「東京大学総長賞」の選考及び授与式 * 報告 (資料13) 13-1:令和4年度学生表彰「東京大学総長賞」受賞者一覧、13-2:令和4年度学生表彰「東京大学総長賞」授与式について	藤垣理事
14	TSMC社とのMOU締結 * 報告 (資料14) UTokyo-TSMC MOU	相原理事

議題及び資料

15	2023年度給与マネジメント支援プログラムの申請受付期間の延長 * 報告 (資料15) 15-1:2023年度給与マネジメント支援プログラムの申請受付期間の延長(通知)、15-2:(参考資料)人件費等支援制度について	林理事
16	人事選考のために～「無意識のバイアス」確認シート～ * 報告 (資料16) 東京大学「無意識のバイアス」確認シート(案)(学内限り)	林理事
17	UTokyo 男女+協働改革 #WeChange ロゴ * 報告 (資料17) #Wechangeロゴ	林理事
18	文京区西片の女子学生向け賃貸物件に関する報告 * 報告 (資料18) 文京区西片の女子学生向け賃貸物件に関する報告	相原理事
19	国際交流協定・覚書(全学分)の締結等年度末報告 * 報告 (資料19) 国際交流協定・覚書(全学分)の締結等年度末報告	林理事
20	東京大学ニューヨークオフィス(UTokyoNY)の利用案内 * 報告 (資料20) UTokyoNY利用案内	津田執行役
21	2023年度・第1期東京大学ニューヨークオフィス(UTokyoNY)イベント募集/2022年度UTokyoNY イベント開催実績・予定 * 報告 (資料21) 21-1:2023年度・第1期東京大学ニューヨークオフィス(UTokyoNY)イベント募集要項、21-2:2022年度 UTokyoNY イベント開催実績・予定	津田執行役
22	その他 (1) 日本証券業協会共催SDGsシンポジウム～日本のカーボンニュートラル実現に向けた道筋を考える～開催 (資料22) 東京大学×日本証券業協会 SDGsシンポジウム～日本のカーボンニュートラル実現に向けた道筋を考える～	津田執行役

議題及び資料

01	学内外情勢 (資料1) 学内外情勢	総長
02	令和5(2023)年度理事等の分担 (資料2) 令和5(2023)年度理事等の分担	総長
03	令和5年度経営協議会委員 (資料3) 東京大学経営協議会委員名簿	総長
04	東京大学連携研究機構規則の一部改正 * 審議 (資料4) 東京大学連携研究機構規則の一部改正について(案)	齊藤理事
05	東京大学における教員の任期に関する規則の一部改正 * 審議 (資料5) 東京大学における教員の任期に関する規則の一部を改正する規則(案)	齊藤理事
06	ウクライナ侵攻を受けた「学生・研究者の特別受入れプログラム」による学生の授業科目履修 * 審議 (資料6) ウクライナ侵攻を受けた「学生・研究者の特別受入れプログラム」による学生の授業科目履修について	林理事
07	令和5年度名誉教授称号授与に係る日程 * 審議 (資料7) 7-1:令和5年度名誉教授称号授与に係る日程(案)、7-2:名誉教授候補者の推薦について(依頼)	総長
08	令和5年度企画調整分科会委員の報告 * 報告 (資料8) 令和5年度企画調整分科会委員名簿	相原理事
09	連携研究機構(微生物科学イノベーション連携研究機構、地震火山史料連携研究機構、価値創造デザイン連携研究機構、芸術創造連携研究機構、生命倫理連携研究機構)の変更 * 報告 (資料9) 連携研究機構の設置・変更について	齊藤理事
10	デジタルオブザーバトリ研究推進機構の設置 * 報告 (資料10) 研究組織の設置について(デジタルオブザーバトリ研究推進機構)	齊藤理事
11	令和5年度若手研究者自立支援及び育成支援 * 報告 (資料11) 令和5年度若手研究者の自立支援及び育成支援制度(科所長限り)	齊藤理事
12	一般社団法人リサーチ・アドミニストレーション(RA)協議会組織会員加入 * 報告 (資料12) リサーチ・アドミニストレーション協議会(RA協議会)への組織会員加入について	齊藤理事
13	文書・図書・モノのリスト化検討ワーキング・グループのまとめ * 報告 (資料13) 文書・図書・モノのリスト化検討ワーキング・グループまとめ	齊藤理事
14	その他 (1) 令和5年度東京大学入学式 (資料14) 令和5年度東京大学入学式について	大久保理事

議題及び資料

(2) 東京大学公開講座

津田理事

(資料15) 第135回(2022年秋季)東京大学公開講座実施報告

(3) 第7回東京大学環境安全衛生スローガンコンテスト

岸執行役

(資料16) 16-1:第7回東京大学環境安全衛生スローガンコンテスト実施要項、16-2:第7回環境安全衛生スローガンコンテストポスター

(4) 令和5(2023)年度科所長会議名簿

総長

(資料17) 研究科長・学部長・研究所長会議(科所長会議)

(5) 令和5(2023)年度総長補佐

大久保理事

(資料18) 令和5(2023)年度補佐会名簿

2023年3月全学環境安全管理室等会議・事故災害報告(要約)

・不休業事故・災害

- 22271F** 技術職員(女性:57歳);渡船を養殖筏に着ける際、船体と筏が接触するのを防ぐため咄嗟に筏に手をかけてしまい、筏と船の係留柱との間に左手中指を挟まれ骨折した。
- 22272F** 研究員等(男性:40歳);実験室に入室する際に、ドアに頭部を強打した。
- 22274F** 臨床研修医(女性:27歳);患者を搬送しているストレッチャーの方向を変える際に、前輪に右足小指を轆かれて骨折した。
- 22275F** 技術員(男性:57歳);ナタで小枝を切り落とす作業をしていた際に、保持していた右手に誤って刃をあててしまい切創を負った。
- 22276F** M2院生(男性:24歳);液体窒素容器から検体を出そうとしたところ、軍手を着用していた右手の指に液体窒素がかかり火傷を負った。
- 22278F** 学術専門職員(女性:45歳);洗濯乾燥機を廃棄する際に、引っかかっていた電源コードをハサミで切断しようとしたところ、ショートして火花が目元近くに当たった。
- 22281F** 臨床研修医(男性:33歳);ホルマリンを検体容器に注ぐ際、勢いよく注いだために容器が動いて内容物がこぼれ、蒸気曝露した。
- 22283F** 技術職員(男性:59歳);伐採した竹(重量40Kgほど)を右手で持って引いていた際に、周囲の切株に右手親指が接触し、裂傷を負った。

・ヒヤリハット

- 22269H** 設定ミスにより電気炉の温度を急激に上げようとしたため、電熱線が赤熱化、これを火災と勘違いし、粉末消火器を電気炉に噴射してしまった。
- 22273H** 窒素ガス供給ラインと装置を接続していたチューブが外れ、室内に窒素ガスが充満。酸素濃度計が鳴動した。

・その他

- 22249S** 発電機撤去のためフライホイール(20t)をリフターで吊り上げた際、エンドレススリングが破断し、リフターごと転倒した。

・人的被害なし、設備災害のみ

- 22282Ns** 除雪しながら重機を前進させていた際、アームとブームの接続部が空中に敷設されていた電線に接触し切断した。

・人的被害なし、設備災害でない小火あり

- 22270Nf** 紙素材をレーザー加工機で切断する際に、出力を通常より高く設定したため火が発生した。
- 22289Nf** 電気ストーブの電源を入れたところ、コンセントに差していた電源タップのプラグから発煙した。

・人的被害なし、設備災害でない機器・施設損傷あり

- 22279Nd** (構内)車の転回のため切り返してバックした際に、駐車していた車両と接触した。
- 22284Nd** (構内)マイクロバスを運転中、狭いカーブで操作を誤り、ガードレールに接触した。

以上 教養学部等環境安全管理室

2023年4月 全学環境安全管理室等会議・事故災害報告(要約)

・休業4日以上

22309I 看護師(男性:46歳);荷物(250Kg以上)を積んだ台車を廊下から倉庫に入れようとした際に、倉庫から出て来た人との衝突を避けるため台車を引き寄せ、左に回避したところ、腰付近を痛め、後日両腸骨不全骨折と診断された。(休業42日)

・休業4日未満

22302M 助産師(女性:32歳);ベッドに座りながら長時間左手で産痛緩和のマッサージを行っていたところ、左肩と背中を痛めた。(休業1日)

22308M 技術職員(女性:56歳);前方から来た人を避けようとしたところ、歩道と植栽の間の段差で躓き転倒。右肋骨を骨折した。(休業1日)

・不休業事故・災害

22277F 研究員等(男性:27歳);入院中の犬の服交換のためエリザベスカラーを外して保定しようとしたところ、犬が興奮して右手中指を噛まれた。

22286F 助教(男性:32歳);昇降台を折りたたんだ際に、台の可動部に左手を挟み内出血した。

22287F 学術専門職員(女性:59歳);作業していた業者に注意を向けて廊下を歩行していたところ、突然現れた人の肩と顔面衝突し、脳震盪を起こした。

22288F D1院生(男性:25歳);シリンジで液体試薬(プロピオール酸メチル)を吸引してガラス瓶に移す作業をしていた際、試薬が飛散して装着していたラテックスの手袋に付着。手袋に浸透した試薬が皮膚に接触して化学やけどを負った。

22292F 事務職員(女性:44歳);段ボールを抱えながら教室内を移動中、教壇の段差(10cm程度)で右足を踏み外して足首を痛めた。

22294F 看護師(女性:29歳);廊下で歩行器に防錆・潤滑剤(KURE5-56)を噴霧したところ、床が異常に滑りやすくなっており、同じ場所で2回立て続けに滑って転倒した。

22295F 臨床検査技師(女性:25歳);薄切用の刃をホルダーから取り出す際に、右手薬指を切った。

22296F 事務職員(女性:30歳);荷物を移動した際に手が滑って指に荷重がかかり、右手人差し指の爪が剥がれた。

22297F D2院生(男性:26歳);アセトニトリルを使用した実験を長期間(3年ほど)続けていたところ、蒸気暴露や皮膚への付着が重なったことで、体中に発疹ができる等のアレルギー症状が出た。

22301F 看護補助者(女性:52歳);ポータブルトイレ(8kg弱)を片付ける際に、腰を捻ってぎっくり腰になった。

22303F 看護師(女性:28歳);疥癬との診断を受ける前の患者の対応をしたことにより、疥癬に感染した。

22304F 看護師(女性:24歳);疥癬との診断を受ける前の患者の対応をしたことにより、疥癬に感染した。

22306F 技術職員(男性:32歳);高枝切りのこぎりを使用して樹木の枝切作業を行っていた際に、切断して落下した枝が倉庫の底でバウンドして、右手に当たった。

22314F 特任講師(男性:45歳);眼鏡をはずしていたため足元がよく見えない状況で、石段を踏み外して転倒。左足首を骨折した。

22315F M1院生(男性:23歳);歩道橋の階段で段差を見誤り躓いて転倒。右手薬指を骨折した。

22316F 看護師(女性:38歳);ベッド下にある延長コードにコンセントを差すためしゃがんだところ、左足を痛めた。

・通勤災害

22305J 特任専門職員(女性:56歳);退勤時、歩道とビル敷地との境界の段差に躓き、左足を痛めた。

22311J 技能補佐員(女性:68歳);退勤時、段差に躓いて転倒。左肘を骨折した。

・ヒヤリハット

22293H 石油ストーブに給油する際に、灯油と取り違えてガソリンを給油した。

22300H ベランダで実験装置金具の溶接作業を行っていたところ、(本来は一時的に動作停止しておくはずの)紫外線センサーが感知して発報した。

・その他

22313S 車両ゲートで駐車券を取ろうとて身を乗り出したところ、誤ってアクセルを踏み込み、車がゲートバーに接触した。

22319S D2 院生(男性:28 歳);飲酒により酩酊状態となって救急搬送された。

・人的被害なし、設備災害でない小火あり

22299Nf ペーパータオルを敷いたプラスチック製網かごにシャーレを入れ、低温乾燥機内で乾燥させようとしたところ、かごが溶けて発煙発火した。

・人的被害なし、設備災害でない機器・施設損傷あり

22285Nd 全長の長い車(ハイエース)で建物とテニスコートの間のクランク状の空間を通過する際、内輪差を見誤りテニスコートのフェンスに衝突した。

22290Nd 電気カートの停止位置調整のため後進していた際に、排水管架台に接触した。

22307Nd カードリーダーに ID カードをかざすため車から降りたところ、ギアをパーキングに入れておらず、パーキングブレーキもかかっていたため、車が前身し、壁に衝突した。

22310Nd 車を切り返そうとバックした際に、駐車中の別の車と接触した。

・人的被害なし、設備災害でない有害物(臭)流出あり

22312Ni 排水を流し台に流したところ、排水管のひび割れにより階下まで漏水した。

22317Ni 純水発生装置と水道蛇口間の接手部が外れて漏水した。

22318Ni 台車にて廃液タンクを運搬中、往来する車を避ける際にバランスを崩し、タンクが2回落下。2回目の落下の際にタンクのキャップが外れ、廃液(約 100ml)がアスファルト上に漏洩した。

以上 教養学部等環境安全管理室

令和5年度 入学者数

	募集人員		入学者数		外国学校卒業学生		外国政府 派遣 留学生	国費 留学生	計
	前期試験	推薦入試	前期試験	推薦入試	一種	二種			
文1	401	100	(124)	(4)	0	(3)	(1)	0	(132)
			406	9	4	5	1	2	427
文2	353		(73)	(3)	(3)	(2)	0	0	(81)
			358	7	5	5	0	1	376
文3	469		(191)	(8)	(3)	(4)	0	0	(206)
			471	15	5	4	0	2	497
理1	1108		(92)	(11)	(1)	(1)	0	0	(105)
		1110	40	5	3	0	5	1163	
理2	532	(144)	(6)	(4)	0	0	0	(154)	
		540	13	9	0	0	0	562	
理3	97	(24)	(3)	0	0	0	0	(27)	
		97	4	0	0	0	0	101	
計	2960	100	(648)	(35)					
			2982	88	(11)	(10)	(1)	0	(705)
				(683)					
				3070	28	17	1	10	3126
		3060							

()内の数字は女子の数で内数

令和5(2023)年度 進学者数一覧

2023.3.31

科類	文1	文2	文3	理1	理2	理3	留学生 (外数)	計	10月1日内定者数 からの減数			前年度
									留 年	退 学	死 亡 等	計
学 部	法学部	324	5	47	4	5	6	391	12		1	418
	経済学部	18	276	30	9	13	4	350	8			359
	文学部	15	28	226	14	14	5 [2]	302 [2]	20			294
	教育学部	4	2	65	5	5		81	4			96
	教養学部	31	17	76	34	27	1	2	188	12		190
	工学部	12	21	10	797	132		9	981	18		971 [1]
	理学部		1		208	95		2	306	4		302
	農学部	1	8	24	47	172		2	254	26		235
	薬学部		1	1	17	64		2	85	2		89
	医学部	2	3	5	4	15	97		126	2		131
計	407	362	484	1139	542	98	32 [2]	3064 [2]	108	0	1	3085 [1]

計：最終進学者数

[]：PEAK生の進学者で外数

教員各位

東京大学教養学部

S Semester (S1・S2) 定期試験の実施について

2023年度S Semester定期試験を下記により実施します。定期試験を実施される先生方は下記を必ずご一読のうえ、定期試験の実施方法等や問題提出のスケジュールをご確認いただき、ご準備いただくようお願いいたします。

記

(1) 繰り上げ試験（平常授業時間割によって実施する試験）の場合

以下の科目は、原則、最終授業日までの平常授業時間に実施願います。

- ・基礎科目 既修外国語「英語二列」「日本語」
- ・総合科目L系列 古典語「古典語初級・中級」「古典日本語」「古典中国語」
国際コミュニケーション「外国語初級・中級・上級」
- ・主題科目

授業を全面的にオンラインで実施している科目を除き、原則対面での試験実施をお願いいたします。実施にあたっては、(別紙1)「繰り上げ試験の実施について」に記載されている事項について、ご留意ください。

試験監督は授業担当教員（非常勤教員を含む）をお願いしております。

教務課に問題印刷を依頼する場合は、後述の「試験問題に記載する事項」を原稿に明記の上、試験日の3営業日前（土日祝を含まない）の正午までに、試験問題を教務課に提出してください。

(2) 本試験（試験時間割によって実施する試験）の場合**<試験期間>**

S1 ターム開講科目：6月1日(木)～6月3日(土) ※6月3日(土)は予備日。

S Semester開講科目：7月20日(木)～8月2日(水) ※土・日を除く。8月2日(水)は予備日。

S2 ターム開講科目：7月27日(木)～8月2日(水) ※土・日を除く。8月2日(水)は予備日。

<実施形態>

対面試験を実施します。

<対面試験実施にあたっての事前準備>

○ 試験時間、問題印刷の有無、解答用紙の種類、持ち込みの可否（教科書、物品等）については、UTASの「成績・定期試験」→「定期試験（前期課程）」→「試験実施内容調査」（回答必須）にご回答ください。教務課前期課程チームで行う事前準備及び試験当日の業務はご回答いただいた内容に基づいて行われます。

○ 試験時間割は(別紙2)をご覧ください。

○ 本試験の試験監督の割当については、後日、試験監督日程調査にて日程をお伺いします。

○ **試験実施内容調査回答期限及び試験問題提出期限**

S1 ターム開講科目： 5月19日(金) 正午

S セメスター開講科目： 7月 4日(火) 正午

S2 ターム開講科目： 7月11日(火) 正午

※試験監督への留意事項等がある場合には、上記期限までにご提出ください。

○ 試験問題の印刷については(4)をご参照ください。

○ 電子ファイルにてご提出いただく場合、下記のフォームにご提出をお願いいたします。

【定期試験問題提出フォーム】

<URL>

※フォームの回答には「10桁 ID@utac.u-tokyo.ac.jp」と「パスワード(UTokyo Accountと同じ)」によるサインインが必要です。

※ファイル名を「授業科目名_担当教員名」としてください。

(3) 定期試験(本試験)の実施時間について

定期試験(本試験)時間は下記のとおりです。

試験の開始時刻は、90分授業の開始時刻から10分繰り下げた時刻となりますので、ご注意ください。よろしくお願いいたします。

時限	定期試験(本試験)時間 ※試験時間 90分の場合	定期試験(本試験)時間 ※試験時間 60分の場合	(参考) 授業時間 ※90分授業
1時限	8時40分～10時10分	8時40分～9時40分	8時30分～10時00分
2時限	10時35分～12時05分	10時35分～11時35分	10時25分～11時55分
3時限	13時25分～14時55分	13時25分～14時25分	13時15分～14時45分
4時限	15時20分～16時50分	15時20分～16時20分	15時10分～16時40分
5時限	17時15分～18時45分	17時15分～18時15分	17時05分～18時35分

(4) 試験問題の印刷について

教務課に印刷を依頼する場合

UTAS「成績・定期試験」→「定期試験(前期課程)」→「試験実施内容調査(回答必須)」に必要事項を入力の上、期限までに試験問題原稿を教務課前期課程チームに提出してください。

※印刷には輪転機を使用しておりますのでステープル(ホチキス)留め・カラー印刷はできません。

教務課での印刷が不要な場合・問題提出期限に遅れた場合

UTAS「成績・定期試験」→「定期試験(前期課程)」→「試験実施内容調査(回答必須)」にその旨ご回答いただいたうえで、試験日の3営業日前(土・日・祝日を含まない)までに教員自ら履修者数分+予備(◆1)の試験問題をコピーして、印刷済の試験問題を教務課前期課程チームに提出してください。教員が試験問題を直接試験会場に持参することは認められません。

◆1 5部×試験教室数+1部(教務課保管分)

※試験問題には、下記「試験問題に記載する事項」を明記願います。

※履修者数は、UTAS「履修」→「履修者名簿出力」から確認できます。

※授業期間中(補講日を含む)は1号館2階の非常勤講師控室でコピーが可能です。

授業期間外は控室が閉室しておりますので、お手数ですがご自身でコピーをお願いします。

※感染対策のため、配付・回収時の接触を極力減らすことができるよう、配付物の枚数は可能な限り

少なくしていただけますよう作問の際にご配慮いただけますと幸いです。

以 上

試験問題に記載する事項 **※試験問題には必ず以下の事項を記載してください**

① 科目名 ② 教員名

③ 試験実施月日・時限・試験時間（試験時間は、原則として「語学」は60分、「語学以外」は90分です。）

④ クラス指定科目の場合は指定クラス

⑤ 学生に配付する解答用紙・計算用紙の枚数

「1枚」の場合：B4版両面1枚

「2枚」の場合：A4版両面2枚（冊子）

「3枚」の場合：A4版両面3枚（冊子）

「4枚」以上の場合：上記の「2枚」、「3枚」を組み合わせる。

受験者数と答案部数を一致させるため、答案は1人1部（1枚・1冊）厳守でお願いいたします。

解答用紙の追加配付は認められませんので、解答用紙の不足が見込まれる場合には、あらかじめ多めに枚数を指定してください。

⑥ 持込みを認める場合は別紙「試験時における持込についての申し合わせ」を参照してください。

（記入例）

科目名 ●●●●●●	教員名 ●● ●●	●月●日●時限 試験時間●分	
指定クラス ●科●類●組	解答用紙 ●枚	計算用紙 ●枚	持ち込み 有・無

記入例のテンプレート：（以下をご利用ください）

<https://zenkyomu.c.u-tokyo.ac.jp/shiken/examinfo-template.docx>

教員各位

東京大学教養学部教務課前期課程

繰り上げ試験の実施について

繰り上げ試験を実施する際には、以下の事項を遵守していただきますよう、お願いいたします。

- ・試験情報の板書

試験を開始する前に、科目名、試験時間、持ち込み許可の有無（「有」の場合、許可物の詳細）、注意事項等を板書し、学生に周知してください。

- ・出欠状況と答案等部数の確認

試験の出欠状況を、履修者名簿等を用いて確認してください。また、回収した答案等に関しましては、部数が受験者数と一致していること、また氏名等が記載されていることをご確認ください。

- ・学生が多い場合の教室確保

原則として、本試験と同じ座席配置（受験者の両隣が空席になるように配置）で実施してください。試験を実施するにあたり、普段より大きめの教室をご希望の場合は、あらかじめ教務課前期課程までご相談ください。

- ・TA が試験実施補助を行う場合の留意点

TA が試験実施補助を行う場合には、教員も必ず監督を行い、TA のみで試験を監督することがないようにご注意ください。試験時間中の質問対応は、担当教員が行ってください。

- ・試験実施において、不明な点があれば、教務課までお問い合わせください。

To Course Instructors

College of Arts and Sciences
The University of Tokyo

Guidelines for the Regular Examinations (S Semester (S1/S2 Term))

The following are the guidelines for Regular Examinations for S Semester (S1/S2 Term) 2023. Please read the guidelines thoroughly and check the exam forms, submission schedule and prepare for the Regular Examination if you are planning to implement Last-Class Exam (*Kuriageshiken*) or Exam-period Exam (*Honshiken*).

(1) Last-Class Exams (*Kuriage-shiken*) : held during the regular class

Examinations for the following courses should be implemented during **the regular class, by the end of term/semester:**

(April-entry student's courses)

English 2/ Japanese/Languages (Introductory/ Intermediate/ Advanced) in International Communication /
Classical Languages (Introductory/ Intermediate) in Group L Integrated Courses / Thematic Courses

(PEAK Courses)

Foreign Languages (English/Japanese) in Foundation Courses/ Languages (Introductory/ Intermediate/
Advanced), Applied Japanese in Group L, Integrated Courses/ Thematic Courses

- Please follow the “Instructions to Implement Last-Class Exams” (Attachment) for implementation.
- Course instructors (including part-time instructors) are requested to invigilate the exams for their own courses.
- If you are requesting the Academic Affairs Division to make copies of the exam papers, provide the necessary information (listed on page 3, under “Exam Information”) on the exam papers, and submit the exam papers to the Academic Affairs Division by noon, at least three days prior to the exam day (allow extra time for Saturdays, Sundays and national holidays).

(2) Exam-Period Exams (*Hon-shiken*) : held during the specified exam period

<Exam Period>

S1 Term courses: **June 1 (Thu) ~ June 3 (Sat)** *Extra day: June 3 (Sat.)

S Semester courses: **July 20 (Thu) ~ August 2 (Wed)**

*Except for Saturday and Sunday. Extra day: August 2 (Wed.)

S2 Term courses: **July 27 (Thu) ~ August 2 (Wed)**

*Except for Saturday and Sunday. Extra day: August 2 (Wed.)

<Exam delivery modalities>

In-person examinations will be conducted.

< Preparation for Exam-Period Exams (Hon-shiken)>

- Please be sure to register the details of exams (duration, no. of answer sheets needed, items permitted to bring in to exam, etc) through UTAS (Log in→ “Grade”→ “Exam-Period Exam”→ “Register information of exams”). Registered information will be referred to by the PEAK/GPEAK Section and Junior Division Section to prepare for the exam.
- Refer to the attached sheet for the exam schedule for each course.
- A notice of the assignment of invigilators for exam-period exams will be sent out by e-mail at a later date.
- **Deadline for registering the information of exams and submitting exam papers:**

S1 Term courses: Noon, May 19 (Fri)

S Semester: Noon, July 4 (Tue)

S2 Term courses: Noon, July 11 (Tue)

*If you have any handouts related to instructions for invigilators, please also submit the original copy to Academic Affairs Division office (PEAK courses: to PEAK/GPEAK Section, other courses: to Junior Division Section) by the deadline above.

- Refer to (4) for printing of exam papers.
- If submitting the exam paper by data, please fill in the following Microsoft Forms.
Please further note to login with your “10digit ID@utac.u-tokyo.ac.jp” & password (same as UTokyo account) to use Microsoft Forms

【URL for submitting exam paper data (April-entry student’s courses)】

URL 前期チーム要差し込み

【URL for submitting exam paper data (PEAK courses)】

URL 国際化推進チーム要差し込み

(3) Regular Exam (Exam-Period Exam) Time

Note that the starting time of each exam period is brought down by 10 minutes compared to the class hours.
The Regular Exam (Exam-period Exam) time is as follows.

Period	Regular Exam (Exam-period Exam) Time *In the case, exam duration is 90 minutes	Regular Exam (Exam-period Exam) Time *In the case, exam duration is 60 minutes	(Reference) Class Hours *90minutes
Period 1	8 : 40 a.m. ~ 10 : 10 a.m.	8 : 40 a.m. ~ 9 : 40 a.m.	8 : 30 a.m. ~ 10 : 00a.m.
Period 2	10 : 35 a.m. ~ 12 : 05 p.m.	10 : 35 a.m. ~ 11 : 35 a.m.	10 : 25 a.m. ~ 11 : 55 a.m.
Period 3	1 : 25p.m. ~ 2 : 55 p.m.	1 : 25p.m. ~ 2 : 25 p.m.	1 : 15 p.m. ~ 2 : 45 p.m.
Period 4	3 : 20 p.m. ~ 4 : 50 p.m.	3 : 20 p.m. ~ 4 : 20 p.m.	3 : 10 p.m. ~ 4 : 40 p.m.
Period 5	5 : 15 p.m. ~ 6 : 45 p.m.	5 : 15 p.m. ~ 6 : 15 p.m.	5 : 05 p.m. ~ 6 : 35 p.m.

(4) Printing of Exam Papers

Requesting Academic Affairs Division to make copies

Provide the necessary information by filling out and registering the information of exams through UTAS (“Grade”→ “Exam-Period Exam”→ “Register information of exams”) and submit the original copy of the exam papers to Academic Affairs Division (PEAK courses: to PEAK/GPEAK Section, other courses: to Junior Division Section) by the designated deadline.

*Please note that the printing equipment used does not allow for stapling and color copies.

Not requesting Academic Affairs Division to make copies or Did not meet the submission deadline

Provide the necessary information through UTAS (“Examinations”→ “Exam-Period Exam”→ “Register information of exams”), make copies of the exam papers by yourself (the number of examinees + extra copies (◆1)) and submit them to the Academic Affairs Division **at least three working days prior to the exam date (allow extra time for Saturdays, Sundays and national holidays)**. **You (the instructors) are strictly forbidden to bring the exam papers directly to the exam room.**

- ◆1 (5 extra copies x Number of exam rooms) + 1 extra copy (for Academic Affairs Division archive)
- On the exam paper, please provide the “Exam Information” specified on the following page.
- Refer to UTAS “Course” → “Class List” for the number of examinees.
- Copying equipment is available in the Part-Time Instructors’ Room (Hijokin-Koshi-Hikaeshitsu) on the second floor of Building 1 during the regular class period (including supplementary class periods).
- Besides the regular class period, the Part-Time Instructors’ Room will be closed and you will be required to make the copies elsewhere by yourself.
- As part of infection control measures to reduce the contact-time for distributing and collecting exam papers, we humbly ask you to consider keep in mind of minimizing the amount of printed papers when preparing/creating the exams.

Exam Information

*Provide the following information on the exam paper

1. Course title

2. Course instructor

3. Exam date/ period/ duration (In principle, 60 minutes for language courses, 90 minutes for non-language courses)

4. Designated stream/ class, if any

5. The number of answer sheets and calculation sheets per student

1 sheet : 1 B4 sheet, printed on both sides (Japanese/ English version)

2 sheets: 2 A4 sheets, printed on both sides (leaflet type) (Japanese/ English version)

3 sheets: 3 A4 sheets, printed on both sides (leaflet type) (Japanese/ English version)

4 or more: combination of the “2 sheets” and “3 sheets” above

s6. Items permitted to be brought into the exam room

Be sure to refer to the attached “Faculty Agreement on items permitted in exams” if you permit any items to be brought into the exam rooms.

(Sample)

Course title XXXXX	Course instructor XXXX XXXX	Date <u>XX XX</u> Period <u>X</u> Duration <u>XX</u> min.	
Stream/ Class No. NS / HS I / II / II No. XX	# of answer sheets X	# of calculation sheets X	Items permitted in exams Y / N

The sample template is available on the following web page:

<https://zenkyomu.c.u-tokyo.ac.jp/shiken/esxaminfo-template.docx>

Dear Faculty Members,

PEAK/GPEAK Section
Academic Affairs Division
College of Arts and Sciences
The University of Tokyo

Instructions to Implement Last-Class Exams

The following are the instructions to be followed by the invigilator in conducting Last-Class Exams. These instructions must be followed strictly to the letter.

- Writing exam information on the blackboard

Before starting the exam, write the following information and announce to the students.

① Course title ② Exam period (start/end time) ③ Whether the exam is open-book or not (If “open-book”, write all the items permitted) ④ Any other notice

- Checking examinees' attendance and the number of answer sheets

Check the examinees' attendance using the registered students' list. Also, after the exam, count the number of the collected answer sheets to make sure that it matches the number of the examinees present. Make sure that the student's name is written on all answer sheets.

- Securing a larger room for a Last-Class Exam

In principle, please seat the students in the order of their student ID numbers, in every other seat (i.e. leaving one seat between students vacant). If you need a larger classroom for a last-class exam, please consult PEAK/GPEAK Section beforehand.

- Notes for when using TAs for the support of exam implementation

When using TAs for the support of exam implementation, you must invigilate together with TAs, or should not allow TAs to invigilate alone. The questions from students must be answered by the instructor, not by TAs.

- If there are any inquiries concerning the implementation of Last-Class Exams, please contact PEAK/GPEAK Section, the Academic Affairs Division (E-mail: peak-gpeak@adm.c.u-tokyo.ac.jp).

2023年度S Semester (S1 Term・S2 Term) 定期試験(本試験)時間割 Exam-period Exam Timetable for S Semester (S1/S2 Term) 2023

		1限(8:40~) Period 1 (8:40AM~)	2限(10:35~) Period 2 (10:35AM~)	3限(13:25~) Period 3 (1:25PM~)	4限(15:20~) Period 4 (3:20PM~)	5限(17:15~) Period 5 (5:15PM~)	
S1 Term	S1 Term	6月1日(木) Jun.1(Thu)	S1ターム総合科目 S1 Term Integrated Courses		数理科学基礎 (April-entry) Basics of Mathematical Sciences	S1ターム総合科目 S1 Term Integrated Courses	
	S1 Term	6月2日(金) Jun.2(Fri)	S1ターム総合科目 S1 Term Integrated Courses	物性化学 (April-entry) Basics in Material Chemistry	生命科学 (April-entry) Biological Sciences	S1ターム総合科目 S1 Term Integrated Courses	
S Semester / S2 Term	S Semester / S2 Term	7月20日(木) Jul.20(Thu) [S2ターム木曜最終授業日]	S Semester 展開科目・総合科目 (原則として授業と同一曜限) S Semester Intermediate Courses, Integrated Courses (In principle, examinations are held on the same day and period as the regular class)(Exams for PEAK's Foundation Courses are also held)				
		7月21日(金) Jul.21(Fri) [S2ターム金曜最終授業日]	S Semester 展開科目・総合科目 (原則として授業と同一曜限) S Semester Intermediate Courses, Integrated Courses (In principle, examinations are held on the same day and period as the regular class)(Exams for PEAK's Foundation Courses are also held)				
		7月24日(月) Jul.24(Mon) [S2ターム月曜最終授業日]	S Semester 社会科学・人文科学・展開科目・総合科目 (原則として授業と同一曜限) S Semester Social Sciences, Humanities, Intermediate Courses, Integrated Courses (In principle, examinations are held on the same day and period as the regular class)(Exams for PEAK's Foundation Courses are also held)				
		7月25日(火) Jul.25(Tue) [S2ターム火曜最終授業日]	S Semester 社会科学・人文科学・展開科目・総合科目 (原則として授業と同一曜限) S Semester Social Sciences, Humanities, Intermediate Courses, Integrated Courses (In principle, examinations are held on the same day and period as the regular class)(Exams for PEAK's Foundation Courses are also held)				
		7月26日(水) Jul.26(Wed) [S2ターム水曜最終授業日]	S Semester 社会科学・人文科学・展開科目・総合科目 (原則として授業と同一曜限) S Semester Social Sciences, Humanities, Intermediate Courses, Integrated Courses (In principle, examinations are held on the same day and period as the regular class)(Exams for PEAK's Foundation Courses are also held)				
		7月27日(木) Jul.27(Thu)	S2ターム総合科目 S2 Term Integrated Courses	必修外国語(1年) (April-entry) Required Foreign Languages (Year1)	力学 (April-entry) Mechanics	生命科学 I (April-entry) Biological Sciences I	(S1ターム追試験) (Make-up Exams for S1 Term Courses)
		7月28日(金) Jul.28(Fri)	S2ターム総合科目 S2 Term Integrated Courses	必修外国語(1年) (April-entry) Required Foreign Languages (Year1)	情報 (April-entry) Information	基礎化学 (April-entry) Basic Chemistry	(S1ターム追試験) (Make-up Exams for S1 Term Courses)
		7月31日(月) Jul.31(Mon)	S2ターム総合科目 S2 Term Integrated Courses	必修外国語(1年) (April-entry) Required Foreign Languages (Year1)	化学熱力学・熱力学 (April-entry) Chemical Thermodynamics, Thermodynamics	微分積分学① (April-entry) Calculus	有機反応化学 (April-entry) Basics in Organic Chemistry
		8月1日(火) Aug.1(Tue)	S2ターム総合科目 S2 Term Integrated Courses	必修外国語(1年) (April-entry) Required Foreign Languages (Year1)	英語一列 (April-entry) English I	線型代数学① (April-entry) Linear Algebra	図形科学B (April-entry) Graphic Science B
		8月2日(水) Aug.2(Wed)	予備(S1ターム追試験) Extra (Make-up Exams for S1 Term Courses)				

※ 8月2日は予備日とする。

August 2 is for extra.

※ 8月2日またはS Semester 試験期間中の空きコマのうち、いずれかの時限で、S1タームに開講する「数理科学基礎」「物性化学」「生命科学」の追試験を実施する。(後日日程調整)
Make-up Exams for (April-entry) Basics of Mathematical Sciences, (April-entry) Basics in Material Chemistry and (April-entry) Biological Sciences will be held on August 2 or other periods during S Semester exam-period. (TBD)

(English version follows.)

2023年 月 日

教員各位

東京大学教養学部

Sセメスター/S1・S2ターム成績報告

2023年度Sセメスター/S1・S2ターム成績について、下記のとおり成績報告等よろしくお願ひします。

記

(1) 成績報告

成績は上記の期日までにUTAS「成績・定期試験」→「成績登録」から報告してください。

2年生の成績報告は、進学選択のため、特に日程がタイトになっています。期限に遅れた場合、進学選択の実施や進級・進学の判定に支障をきたすため、締切日を厳守してください。成績報告期限に海外などに渡航される予定の方は、期限より早めに成績報告されるなどの対応をお願いいたします。

対象学期	対象学生	報告期日 ※厳守※
S1ターム	2年生、PEAK 2年生、編入生	6月9日(金) 正午
	1年生、PEAK 1年生	6月29日(木) 正午
Sセメスター/S2ターム	2年生、PEAK 1・2年生	8月8日(火) 正午
	1年生、編入生	8月29日(火) 正午

(2) 成績評価の確認

成績が不合格(不可、不合格、欠席)の科目は、UTASを通じて学生が「成績評価の確認」を申請することができます。なお、操作方法等の詳細については2ページ目以降を参照ください。

訂正があった場合、進学選択の実施の判定に影響するため、締切日の厳守をお願いいたします。

対象学期	対象学生	学生の申請期間	教員の回答期限 ※厳守※
S1ターム	2年生、PEAK 2年生、編入生	6月19日(月)~20日(火)	6月22日(木) 正午
	1年生、PEAK 1年生	7月6日(木)~7日(金)	7月12日(水) 正午
Sセメスター/S2ターム	2年生、PEAK 1・2年生	8月21日(月)~22日(火)	8月24日(木) 午前9時
	1年生、編入生	9月11日(月)~12日(火)	9月14日(木) 正午

(3) 成績評価に関する申し合わせと理由書について

「優」及び「優上」を合わせて受験者の20%~40%の範囲を超えた場合の理由書は、所定の様式を使用することになっております。詳細は以下を参照ください。(UTAS掲示板からも確認できます。)

- ・成績評価に関する申し合わせ：https://zenkyomu.c.u-tokyo.ac.jp/seiseki/seiseki_moushiawase.pdf
- ・理由書様式：<https://zenkyomu.c.u-tokyo.ac.jp/seiseki/riyuusho.xls>

※理由書は、前期課程各部会開講科目は部会主任まで、各学部開講総合科目は教務課まで提出してください。

(4) 答案等の管理について

試験終了後の答案(レポート等も含む)や出欠簿等採点の根拠となる資料に関して、必ず1年間の保管をお願いいたします。

To Faculty Members

College of Arts and Sciences
The University of Tokyo**Guidelines for Grade Reporting (S Semester & S1 Term & S2 Term)**

The following are the guidelines for grade reporting for S Semester, S1 Term and S2 Term, 2023.

(1) Grade Reporting

Semester/Term	Student Category	Reporting Deadline
S1 Term	2 nd year (April-entry & PEAK) students/ Transfer students	<u>Noon, Jun. 9 (Fri)</u>
	1 st year (April-entry & PEAK) students	<u>Noon, Jun. 29 (Thu)</u>
S Semester & S2 Term	2 nd year (April-entry) / PEAK (1 st year & 2 nd year) students	<u>Noon, Aug. 8 (Tue)</u>
	1 st year (April-entry) students/ Transfer students	<u>Noon, Aug. 29 (Tue)</u>

Please make sure to register students' grades on UTAS ("Grades" → "Register grades") by the deadlines above.

Strictly observe the deadlines, as grades submitted after the deadlines will not be reflected in the decision's made on the student's status, and this affects April-entry students and PEAK students for advancement and matriculation procedure to second year or Senior Division. For those going abroad during the grade reporting periods, please make sure to submit all grades well in advance of the deadline.

(2) Grade Confirmation Request

Students may request grade confirmation through UTAS if their grade was Fail (F/Fail or Absent). Please refer to the following pages for details on the grade confirmation outline and the correction procedures.

Semester/ Term	Student Category	Application Period for Grade Confirmation Request by Students	Deadline for Instructor's Reply
S1 Term	2 nd year (April-entry & PEAK) students/ Transfer students	Jun. 19 (Mon) - Jun. 20 (Tue)	<u>Noon, Jun. 22 (Thu)</u>
	1 st year (April-entry & PEAK) students	Jul. 6 (Thu) - Jul. 7 (Fri)	<u>Noon, Jul. 12 (Wed)</u>
S Semester & S2 Term	2 nd year (April-entry) & PEAK (1 st year & 2 nd year) students	Aug. 21 (Mon) - Aug. 22 (Tue)	<u>9:00 am, Aug. 24 (Thu)</u>
	1 st year (April-entry) students/ Transfer students	Sep. 11 (Mon) - Sep. 12 (Tue)	<u>Noon, Sep. 14 (Thu)</u>

Your answer to the Grade Confirmation Request may affect the advancement to Senior Division of the student. Careful calculation is required and be sure to avoid incorrect input when reporting grades. The deadlines must be observed strictly.

(3) Faculty Agreement on Grade Evaluation and Statement of Reason

If the number of students receiving the “A” or “A+” grade exceeds or falls below 20-40 % of all the examinees, a statement of reason in a specified format is required. See below for details.

- Faculty Agreement on Grade Evaluation: https://zenkyomu.c.u-tokyo.ac.jp/seiseki/seiseki_moushiawase.pdf
- Statement of Reason format*: <https://zenkyomu.c.u-tokyo.ac.jp/seiseki/riyuusho.xls>

* Submit Statement of Reason to the Head of the Department (*bukai-shunin*) for courses offered by each Junior Division department (*bukai*), and to the Academic Affairs Division for Integrated courses (courses offered by Faculties, centers, etc.).

(4) Handling of Answer Sheets after Exams and Reports

Please safe-keep the evidential documents for your grading such as answer sheets, reports, and participation checklists for one year.

2023年4月20日

各予算部署事務担当者 殿

経理課財務チーム

2023年度における預託金制度について

このことについて、2023年度における本制度の取扱いを以下のとおりとしますので、本制度を利用する場合は、申請手続きを参照の上、別紙申請書を提出願います。

記

1. 制度の趣旨について

各予算部署において、年度を超えた事業計画を実現させるため、2023年度予算を預かり預託金申請時の執行計画に基づき各予算部署へ返金する制度。

2. 利息について

利息を付けないものとします。

3. 対象となる予算科目について

大学運営費－教育研究経費（予算科目コード：100202）とします。

4. 申請手続きについて

1) 申請書の提出期限及び提出先

一次締切：2023年7月14日／財務チームに別紙申請書を提出

最終締切：2023年11月30日／同上

2) 申請限度額

一次締切：原則として、当初予算配分額の50%までとします。

最終締切：当初予算配分額の10%まで。ただし、最終締切申請額（各専攻・系等から申請された額の合計額）の受入は4千万円までとします。

※本部預託金の締切後であり、多額の申請は教養学部だけでは対応できないため、最終締切申請額が4千万円を超えた場合には申請された額を減額調整（当初予算配分額の10%を下回る場合がございます。）することを了承願います。

3) 預託金申請書

預託金申請書には執行計画及び用途を記入願います。

専攻等の予算で複数の教員の取りまとめを行っている場合には用途の記載は不要です。

なお、用途記載の有無に関わらず、執行計画は、必ず記入願います。また、返金を受けた預託金を再度預託することのないよう本制度の趣旨に沿った申請をお願いします。

5. 返還手続きについて

毎年度末に預り書を配布します。預り書に記載された返済額に基づき、当該年度の返金額を10月末頃までに返金しますので、預り書の金額に誤りがないか確認願います。

6. 執行計画の変更について

1) 前年度以前に計画した執行計画に変更が生じた場合は、6月30日までに別添の変更届を財務チームに提出願います。なお、複数回にわたり計画を変更するなど実行性に疑義が生じる場合には個別に説明を求める場合がありますので留意願います。

2) 当該年度一次締切に申請した預託額に修正が生じた場合には、最終締切日までに再度預託金申請書を提出願います（減額のみ可、増額は不可。ただし、大幅な減額の場合は早急に連絡願います。）。

7. その他

- 1) 本件で言う「当初予算」とは、前期課程委員会経由分、後期課程委員会経由分、大学院専攻経由分、附属施設・関連施設・事項指定等の学部共通経費を指すものとします。ただし、研究室・建物維持運営経費、教育支援経費、および大学院生・留学生等経費は対象外とします。また、預託金返済額についても、当初予算には含みません。
- 2) 二次及び三次配分予算、もしくは自己収入分の預託を希望される場合は、別途相談願います。
- 3) 原則、預託申請した予算は、最終締切以降は修正・返却はできませんので、ご注意願います。
- 4) **当該年度でマイナス執行が50万円以上の場合、マイナス額に1.1を乗じた額を精算（千円未満切り上げ）、50万円未満の場合はマイナス執行額分（千円未満切り上げ）を翌年度に精算とします。**
- 5) 借入金制度につきましては、借入実績が少数であることから制度としての運用が廃止されております。借入が必要となった場合には個別にご相談ください。



高校生と大学生のための 金曜特別講座

2023 年度夏学期
(Sセメスター)

連絡先：
「高校生と大学生のための金曜特別講座」事務局
〒153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1
電話 080-3254-4016
high-school@komex.c.u-tokyo.ac.jp
https://high-school.c.u-tokyo.ac.jp/

主催：東京大学教養学部
共催：東京大学生産技術研究所
協賛：一般社団法人 東大駒場友の会

4/14 (金)

17:30-19:00

敵か味方か? 植物の病原菌にも共生菌にもなる微生物

晝間 敬 東京大学 教養学部 統合自然科学科・准教授

4/21 (金)

17:30-19:00

詩を学ぶ意義とは——『論語』解釈から考える——

高山 大毅 東京大学 教養学部 教養学科・准教授

4/28 (金)

17:30-19:00

生命を支える手術ロボットシステム

小林 英津子 東京大学 工学部 精密工学科・教授

5/12 (金)

17:30-19:00

「不思議」なる災害認識——鴨長明『方丈記』を読む——

木下 華子 東京大学 文学部 人文学科・准教授

5/19 (金)

17:30-19:00

「美しい赤外光」のもつ可能性：分子を観る・操る

芦原 聡 東京大学 生産技術研究所・教授

5/26 (金)

17:30-19:00

深層学習の原理に迫る——数学の挑戦——

今泉 允聡 東京大学 教養学部 統合自然科学科・准教授

6/2 (金)

17:30-19:00

史料からみた地震・噴火

杉森 玲子 東京大学 史料編纂所・教授

6/9 (金)

17:30-19:00

アウシュヴィッツから生まれたケンタウロスの話

山崎 彩 東京大学 教養学部 教養学科・准教授

6/16 (金)

17:30-19:00

小さなRNAは今日も奮闘中：同一ゲノムから細胞多様性を導くための戦略とは

東京大学生命科学シンポジウムとのコラボ企画

塩見 美喜子 東京大学 理学部 生物化学科・教授

6/23 (金)

17:30-19:00

計算機で始める社会科学：紛争と危機のシミュレーションを中心に

阪本 拓人 東京大学 教養学部 教養学科・教授

6/30 (金)

17:30-19:00

災禍を伝え継ぐ「場所」の地理学

小田 隆史 東京大学 教養学部 学際科学科・准教授

7/7 (金)

17:30-19:00

機械に人間らしく言葉を使わせるためには?

大関 洋平 東京大学 教養学部 教養学科・講師

7/14 (金)

17:30-19:00

「障害の人権モデル」と精神医療について考える

石原 孝二 東京大学 教養学部 学際科学科・教授

今学期は、**オンライン配信のみ**で開講します。
金曜講座ウェブサイトに記載の方法でお申込みください。
配信希望の中学校・高校・大学は、左記までメールでご連絡ください。
予定が変更になる場合がございます。HPで最新情報をご確認ください。



2023/4/1現在

2023年度 研究科長室、専攻長・系長、図書館長、機構長、センター長等

	研究科長・学部長 (2023.4.1～2025.3.31)	相関基礎科学系	真船 文隆
(選挙)	副研究科長・副学部長 (2022.4.1～2024.3.31)	言語情報科学専攻	月脚 達彦
(選挙)	副研究科長・副学部長 (2023.4.1～2025.3.31)	広域システム科学系	増田 建
(指名)	副研究科長・副学部長 (2023.4.1～2024.3.31)	超域文化科学専攻	清水 晶子
(指名)	副研究科長・副学部長 (2023.4.1～2024.3.31)	相関基礎科学系	松田 恭幸
	副研究科長・副学部長	事務部長	大久保 伸一
(指名)	総長補佐 (2023.4.1～2024.3.31)	生命環境科学系	四本 裕子
(委嘱)	研究科長補佐 (2022.10.1～2023.9.30)	超域文化科学専攻	田村 隆
(委嘱)	研究科長補佐 (2023.4.1～2024.3.31)	生命環境科学系	晝間 敬
	研究科長特任補佐(将来構想調整)	国際社会科学専攻	清水 剛
	研究科長特任補佐(教育の国際化)	国際環境学教育機構	成田 大樹
	研究科長特別顧問	平谷・八百屋法律事務所 弁護士	八百屋 伴声
	研究科長特別顧問	名誉教授	加藤 道夫
	研究科長顧問(法務)	国際社会科学専攻	小粥 太郎
	研究科長顧問(国際広報)	言語情報科学専攻	PETITTO Joshua
	言語情報科学専攻長		小野 秀樹
	超域文化科学専攻長		寺田 寅彦
	地域文化研究専攻長		外村 大
	国際社会科学専攻長		倉田 博史
	広域科学専攻長		瀬川 浩司
	生命環境科学系長		柳原 大
	相関基礎科学系長		石原 孝二
	広域システム科学系長		鈴木 建

駒場図書館長 (2021.4.1～2024.3.31)	石田 淳
総合文化研究科図書館長 (2022.4.1～2024.3.31)	石原 あえか
(任命) 教養教育高度化機構長 (2023.4.1～2025.3.31)	原 和之
(任命) グローバル地域研究機構長 (2022.4.1～2024.3.31)	橋川 健竜
(任命) PEAK・GPEAK統括室長 (2022.4.1～2024.3.31)	渡邊 雄一郎
(任命) 国際環境学教育機構長 (2022.4.1～2024.3.31)	前田 章
(任命) 国際日本研究教育機構長 (2022.4.1～2024.3.31)	岡田 泰平
(任命) 先進科学研究機構長 (2022.4.1～2024.3.31)	福島 孝治
(任命) グローバルコミュニケーション研究センター長 (2022.4.1～2024.3.31)	森井 裕一
(委嘱) 国際交流センター長 (2023.4.1～2024.3.31)	川喜田 敦子
(任命) 複雑系生命システム研究センター長 (2022.4.1～2024.3.31)	澤井 哲
(任命) 進化認知科学研究センター長 (2022.4.1～2024.3.31)	四本 裕子
副研究科 長(文系 選挙) 東アジアリベラルアーツイニシアティブ長 (2022.4.1～2024.3.31)	月脚 達彦
(任命) 共生のための国際哲学研究センター長 (2023.4.1～2025.3.31)	梶谷 真司
(任命) 駒場アカデミック・ライティング・センター長 (2022.4.1～2024.3.31)	大石 和欣



東京大学グローバルリーダー育成プログラム

トライリンガル・プログラム 2023



TLPごあいさつ



多様性の海へ漕ぎ出すために

東京大学総長 藤井 輝夫

今、世界は大きく揺れ動いています。その秩序が脆いものであることを感じる人も多いことでしょう。これまで前提としていたさまざまな常識が大きく変化する今日だからこそ、私たちはアカデミアとして過去から未来に向けて長期を見渡す視野に立ち、大学が果たすべき役割をしっかりと意識しつつ、新しい社会の構築に取り組まなければなりません。東京大学では基本方針 U Tokyo Compass「多様性の海へ：対話が創造する未来」を定めて、世界の多様な人々との対話の実践により、未来を築く卓越した人材を育成しています。トライリンガル・プログラムは、まさにこうした国際的な場に力強く漕ぎ出していく人材を育てるプログラムです。



世界に開かれた扉の鍵を手に入れよう

グローバルリーダー育成プログラム推進室長 福士 謙介

研ぎ澄まされた国際的な感覚をもった人材を養成するために、東京大学ではグローバルリーダー育成プログラム（GLP）が学部学生に提供されています。TLPはこのGLPの一環として、教養学部で前期課程の学生を対象に始まりました。国内だけではなく、国際的にも広大なネットワークをもつ東京大学に学び、さまざまな重要課題に触れることで、相手の言葉に耳を傾け、自分の思いを伝えることの大切さを感じる人は多いことでしょう。このような対話のために必要な高いコミュニケーション能力をTLPは可能にしてくれます。日本語と英語にくわえて、もうひとつの外国語の運用能力を集中的に鍛えるこのプログラムが、世界に開かれた扉の鍵を与えてくれるのです。



より深く、バランスよく世界をとらえる

グローバルコミュニケーション研究センター長 森井 裕一

既に習得している日本語と英語に加えて、東京大学では入学後に新しい外国語を学びます。トライリンガル・プログラム（TLP）では特にインテンシブにこの初修外国語を学び、短期間で高い運用能力を獲得することを目指しています。コミュニケーション能力を獲得するのが一つの目標であるのは当然ですが、さらにその言語の背景にある社会や文化、歴史を知り、世界の複雑さと多様性に触れることも重要です。国際的な活躍をするためには、複雑な対象をより広く深く理解し、多様な視点からバランス良く対象をとらえる能力が不可欠です。そのためにTLPの密度の高い授業に接して、世界で活躍できる新たな基盤を獲得されることを願ってやみません。

TLP(トライリンガル・プログラム)とは



Trilingual Program

東京大学トライリンガル・プログラム (TLP) は、グローバルリーダー育成プログラム (GLP) の一環として、2013年度に教養学部前期課程 (1・2年次) に発足しました。

この前期課程のTLPは、プログラムの履修を希望し、なおかつ入学時に一定レベルの英語力を有すると認められる学生 (上位一割程度) を対象とするもので、日本語と英語に加えてもう一つの外国語の運用能力を集中的に鍛えるために設けられています。当初は中国語のみの展開でしたが、2016年度からはドイツ語、フランス語、ロシア語、2018年度からは韓国朝鮮語、2019年度からはスペイン語でも展開された、今まさに成長しつつあるプログラムです。

各言語には定員枠が設けられていますが^{※1}、入学時にはTLPに参加していない学生にも Semester毎に参加するチャンスがあり、一定のレベルに達している学生にひろく開かれた制度となっています。履修期間は2年次のS Semester (第1 Semester) まで1年半で、修了要件を満たした履修生には、修了証が授与されます。

また、TLPでは、授業で学んだ言語の実践力を高め、また、言語の背景にある文化や習慣を理解するために、夏休みや春休みに現地で語学研修や学生交流などを行っています。^{※2}

言語や時期によって参加人数は異なりますが、10名から20名程度の選抜された学生が、企業等からの寄附による奨学金を受けて派遣されます。

グローバル化が急速に進んだ現代の世界においては、高度な英語力と少なくとも1つの外国語の運用能力が国際的に活躍する人材に求められることが多くなっています。このような人材の育成を目指してTLPはさらなる成長と飛躍を続けています。

※1 2023年度の各言語の定員枠は以下のとおり。

中国語60人、ドイツ語40人、フランス語40人、ロシア語20人、韓国朝鮮語20人、スペイン語40人程度。

※2 これまで、ドイツ語ではボンやケルン、フランス語ではパリ、アンジェ、ブリュッセル、リヨン、ロシア語ではサンクト・ペテルブルグ、イエレヴァン (アルメニア)、韓国朝鮮語ではソウル、スペイン語ではメキシコシティで実施しています。中国語では台湾、南京での研修に加え、後期課程生を対象にした北京上級研修プログラムを開催しています。

詳しくはTLPウェブサイトをご覧ください。

<http://www.cgcs.c.u-tokyo.ac.jp/tlp/index.html>



ドイツ語

TLP授業の POINT

ドイツ語を通して新しい世界を開拓し、
日本とヨーロッパを繋げましょう！

大学院総合文化研究科附属グローバルコミュニケーション研究センター ルーベン・ククリンスキ



[Profile]

もともとは中世ドイツ文学を専門としており、戦争をめぐる叙事詩の比較研究を行うために20年以上まえに来日しました。現在の研究テーマはジェンダー言語学と、戦争・トラウマ・文学の関係です。

TLPドイツ語では、たんに新たな外国語を学ぶだけではありません。目標となるのはむしろ、外国語をつうじて未知の地平や文化を開拓すること、そして自らの文化や生活環境にたいしても新たな視点を獲得することです。ドイツ語はそれにぴったりの言語です。ドイツ語は、EU内で母語としてもっとも広く使われており、英語と共通点が多いため、初学者にとってハードルが低い言語でもあります。地理的な位置関係からも、ドイツは昔からヨーロッパの中心を占めてきました。ドイツは、東から西、南から北へと至る交通の要所であり、これほど多くの隣国と接している国はヨーロッパには他にありません。現在のドイツは社会的な多様性に富んだ移民大国でもあり、戦争、気候変動、ジェンダー、移住といったアクチュアルな問題について活発な議論が交わされています。

社会の変化はつねに言語の変化をとまいません。TLPプログラムでは、そのような変化をライブで経験することができます。最も重要な変化は、目下のところ、文法的な性やジェン

ダーに関係するものです。そこでは、社会的な議論が、ドイツ語文法と密接に繋がっているのです。TLPドイツ語でみなさんが学ぶことは、最新の教材やドイツ語圏で実際に使われているリソースをもとに、一列・二列の必修授業で学んだ基本文法を絶えず更新していくことにほかなりません。

TLPドイツ語は週3回の授業から構成されており、そのうちの2回はドイツ語ネイティブの教員が、1回は日本語話者の教員が担当します。それ以外にもワークショップや国際研修が用意されており、ドイツの言葉や文化、人々と直接的に接することができます。ここ最近ではコロナウイルスの影響により、課外プログラムは制限付きでしか実施できませんでした。それだけに、このたび夏と春のドイツ研修を再開できる運びとなったことを嬉しく思っています。コロナにまつわる制約がドイツでも日本でも徐々に解除されるなか、恒例のクリスマスパーティーなど、親睦を深めるイベントもふたたび実施できるようになることを願っています。

取得すべき単位数

(セメスターごとの入れ替えの際に一定のレベルを満たしているとみなされて新しく編入される学生についてはこの限りではない)

科目名	1年		2年
	Sセメスター	Aセメスター	Sセメスター
基礎科目 一列・二列*	4	2	—
総合科目 演習 (TLP用)	2	2	2
総合科目 初級・中級インテンシヴ(TLP用)	4	4	4
取得すべき単位数	10	8	6

※ 通常の一列・二列の学生と一緒に受講

TLPドイツ語研修

大学院総合文化研究科附属グローバル地域研究機構ドイツ・ヨーロッパ研究センター 平松 英人



ケルン大学法学教室でのレクチャー



ケルン大学学生との交流会



西オーストラリア大学学生とのドイツ語による共同セミナーの様子

2016年度にスタートしたTLPドイツ語では、初年度からドイツにおける海外研修を夏と冬の計2回実施しています。毎回15名前後が参加し、TLPドイツ語履修者のほぼ全員に参加の機会が与えられてきました。現地ではドイツ語の集中的な訓練に加え、多彩な研修プログラムを通じた「ドイツで学ぶ」経験が、「ドイツ語を学ぶ」から「ドイツ語で学ぶ」へのハードルを越えていく力強い後押しとなってきました。2020年3月のケルン研修が新型コロナウイルスによる突然の感染症拡大で中止となった後も、国内でのオンライン主体による代替研修を毎年春休みと夏休みに2回実施することで、海外渡航は言うに及ばず、対面での授業実施も難しい中であって、学生が国際的な経験を積む機会を提供してきました。幸い2022年の夏休みには、2年半ぶりのドイツ渡航となるハンブルクで

の短期研修が実現しました。2023年以降は、3月にはケルンでの、8月にはミュンヘンでの研修が計画されており、履修生の期待に十分応えられる魅力的な研修プログラムとなっています。



ドイツ人学生との国際交流ワークショップでプレゼンテーションをする様子



ハンブルク日本国総領事公邸にて

受講生の声

学びに積極的な仲間と同じ環境で成長してきた経験が、学習全般の基盤になっています



TLPの制度は入学前から知っており、第二外国語を集中的に学ぶことには大きな関心がありました。中でもドイツ語はかっこいいから話してみたいと思っていたので、興味本位で参加することになりました。ドイツ語の必修授業に加えて週3コマで展開される授業は想像以上に忙しく感じたのをよく覚えています。特に15セメスターでは、大学生活に慣れない中で新しい言語を初めから習得することが慌ただしく感じられ苦労しました。しかしTLP履修生は学習意欲が高くドイツ語の技能も着実に伸ばしていたため、自分も置いていかれないように努力することができました。学びに積極的な仲間と同じ環境で成長して

きた経験は、ドイツ語だけでなく学習全般の基盤になっています。

最も印象に残っている出来事はやはり、2年の夏休みに行われたハンブルク研修旅行です。コロナ禍がなければ1年の夏と春にもドイツへ渡航する機会があったり、現地の大学を訪問できたりしたようでその点は残念ですが、それでも実際にドイツ語圏の国に足を踏み入れるという夢を叶えられたことに感動しました。約1週間の滞在は、フィルハーモニーの鑑賞や日本国総領事館の訪問など東大主催の研修だからこそできた体験に満ちた充実した期間でした。この研修がTLPの集大成であり授業は終わってしまいましたが、その後も検定試験と一緒に受けることや自主的なドイツ語勉強会を開くことで絆が絶えていません。

理科一類・2年 清水 賢佑 (2022年度)

このように貴重な機会が得られるTLPですが、英語学習にも力を入れないといけない点には注意が必要です。私はドイツ語の成績は問題なかったのですが、1Aセメスターの英語一列の成績が上位1割に達しなかったため修了のために外部試験を受ける必要がありました。結局、独学でTOEFL100点を超えることができたため無事修了できましたが、その際に改めて英語の重要性を実感しました。第二外国語を本格的に学ぼうとする者にとって間違いなく英語は欠かせないスキルです。

以上が私なりのTLPに対する思いです。このプログラムに身に着けたドイツ語を、そしてドイツ語を学んだという経験をこれからの学びにも役立てたいです！

フランス語

TLP授業の POINT

トライリンガル? 国際的な競争力?
まあそんなに肩に力を入れず、せっかくのプログラム
なので気楽にトライしてみましょう。

大学院総合文化研究科 地域文化研究専攻 藤岡 俊博



[Profile]

フランスの現代哲学を中心に、ヨーロッパの思想史を研究しています。大学入学時になんとなく選んだフランス語が将来の仕事になるとは思いもよりませんでした。いまは教えながら学び続けることができる幸せを日々感じています。

私は2022年度からTLPフランス語を担当しています。TLPフランス語では、基礎科目である「一列」「二列」に加え、TLP用の「演習」および「初級インテンシヴ」を通じて集中的にフランス語を学習していきます。1年生の5 Semesterでフランス語の授業が週5コマあり、しかもTLPの3コマはフランス語をメインに使用して授業がおこなわれますので、とても大変に思えるかもしれません。ですが、今年1年間授業を担当した経験から言いますと、参加者のみなさんは熱心に学習に取り組み、短期間で飛躍的にフランス語の運用能力を向上させてきました。もちろんそれは各自の日々の努力のたまものですが、TLPの授業の特徴にもその理由があると思います。

TLPの授業では、文法事項を学習したうえでその応用を学ぶのではなく、フランス語を実際に「使ってみる」ことから出発します。4月のはじめから、さまざまな日常的な話題についてフランス語で理解し、フランス語で表現する練習を積み重ねていきます。教科書で扱われる題材も、映画や展覧会のポスター、料理のレシピ、求人広告、インターネットのサイトやSNSなど幅広く、しかも実際に存在するものが使われていますので、言語としてのフランス語にとどまらず、現在のフランスやフランス

語圏の文化や社会についても並行して知ることができます。

TLPで学ぶ内容は、フランス国民教育省認定の公式フランス語資格であるDELF（デルフ）・DALF（ダルフ）に準拠しています。DELF/DALFの試験では、読解や聞き取りだけでなく、文書を作成する問題も課されますので、TLPの授業でも、おもに課題と教員による添削を通じて、色々なタイプの文章を書く練習をおこないます。授業が進んでいくにつれて、「一列」「二列」の授業で得られる文法的な知識も段階的に使えるようになりますので、どんどん本格的な文章が書けるようになります。要するにTLPでは、「聴く・読む・話す・書く」という言語の必須能力を総合的に身に着けることができるのです。

また、授業とは別に、ネイティブの先生を中心におこなっている「フランス語でしゃべらんち」という企画もあります。お昼ごはんを食べながら、楽しくフランス語でおしゃべりできる機会ですので、気軽に参加してもらえたらと思います。

はじめて学ぶ外国語は、新しい世界につながるドアのようなものです。ぜひフランス語と一緒に新しい世界を放してみてください。

取得すべき単位数

(Semesterごとの入れ替えの際に一定のレベルを満たしているとみなされて新しく編入される学生についてはこの限りではない)

科目名	1年		2年
	S Semester	A Semester	S Semester
基礎科目 一列・二列*	4	2	—
総合科目 演習 (TLP用)	2	2	2
総合科目 初級・中級インテンシヴ (TLP用)	4	4	4
取得すべき単位数	10	8	6

※ 通常の一列・二列の学生と一緒に受講

TLPフランス語研修

大学院総合文化研究科・超域文化科学専攻 寺田 真彦



アンジェで世界中の学生と友達に

TLPフランス語の海外研修では、フランス語はもとより英語や日本語を意識的・多層的に用いる工夫を凝らしています。単なる言語習得ではなく、フランスの大学生との交流や高等研究機関・省庁で

のレクチャーおよび発表を通じて、社会生活、研究、行政といった幅広い場面での三言語使用の機会を設けています。

たとえば、同世代の大学生との交流では、日本語を学ぶ仏学生と交歓会を行うだけでなく、同じテーマでの発表やディベートで日仏両言語での意見交換を行います。また日本語を学ぶ授業に参加して「外から見た日本」を実感し、母語として使われる日本語に多角的な視点を持てるようにしています。一方で研究所や省庁では高いキャリアを持つ研究者や行政官と対話を持つことで、質の高い言語を用いる重要性を実感できるようにしています。

高いレベルの言語使用を通じて、将来さまざまな分野で活躍するTLP修了生の期待に応えられる海外研修となっています。



フランスのテーブル・サッカーに夢中!



ルーヴル美術館訪問



ブリュッセル自由大学での発表



アンジェ・西カトリック大学にて



受講生の声

TLPには言語を学ぶことの魅力がたくさん詰まっていた

文科二類・2年 岸田 玲奈 (2022年度)

外国語を学ぶことは本当に好奇心を掻き立てられるものです。旅行好きな私にとって、現地の言葉を知るとはその地域の歴史や文化、人々の思考の仕方に一歩近づけてくれるような営みです。

私がTLPを履修したのは、フランス語の美しい響きへの憧れと、せっかくならしっかり習得したかったという理由からでした。実際に受講してみると、初回からフランス語が雨のように降り注いだので驚きました。まさに「インテンシヴ」と言う名に相応しい授業でした。しかし、フランス語を「教えられていた」という感覚はむ

しろなく、会話や作文をするツールとしてフランス語を主体的に使っていくうちに、気づいたら身に付いているという、そんな不思議な感覚を抱きました。拙いフランス語だったとしても、頭を使って捻り出した分だけ成長に繋がっていったように思います。授業前には先生がフランスの音楽を流していて、時にはクイズやゲーム形式で、授業はテンポ良く楽しく進められていきました。また、勉強熱心なクラスメイトたちが身近にいたことで、フランス語を継続するモチベーションはますます高まりました。

幸いなことに、2年の夏にはアンジェ市で研修を行うことができました。世界中から集まった学生たちとフランス語を学び、一緒に観光すること

を通して、想像以上に仲を深めることができました。ホームステイ先での学びも多く、日本語はもちろんのこと英語を通じない環境の中、生活に根ざしたフランス語にどっぷり浸かることができました。街中を探検する時もフランス語でコミュニケーションを取り、自力で目的地に辿り着いた時の喜びは格別なものでした。通常の旅行とは違い、現地の言葉を本気で学んだからこそ得られる経験がこのフランス研修の醍醐味だと思います。これからもフランス語を学び続けていきたいです。

TLPを通して、フランス語のみならずフランスの人々や文化の魅力に触れることができました。ここで培われた語学力と経験はきっと一生の糧になると思います。

中国語

TLP授業の POINT

これまでに積み重ねてきた知性、教養、表現力が
中国語で発揮される授業が展開されています。

大学院総合文化研究科附属グローバルコミュニケーション研究センター 白 春花



[Profile]

人はどのように文を処理しているのか、特にバイリンガル話者がどのように第三言語を習得し、文を処理しているのか、実験心理学的手法を用いて調査しています。

私がTLPの中国語教育に携わってすでに五年目になりました。この五年間では、主に一二年生を対象とした授業をしてきましたが、後期課程の教育にも携わりました。授業中は、中国語を話すことより中国語で話すこと、つまり中国語の運用能力を伸ばすことに重点を置いています。

一年生は、発音を習っている時期から自分の意思を中国語で発信しようとする学生が多いです。それが授業中における鋭い質問や会話、作文の中で伝わってきます。そして、一年次のAセマスターからペアを組んで中国語で問題解決に挑戦したり、グループでインタビューにチャレンジしたりします。これは、まさに、これまでに積み重ねてきた知性や教養、日本語なり英語なりでの表現力といった、彼らがすでに持っているもので、中国語を道具とした高い表現力が発揮されたのであろうと多大に評価しています。

後期課程では、私は、上級中国語および「東アジア教養学」の授業を担当しています。上級中国語では、中国語で書かれた新聞記事やニュースを講読し、受講生に中国語で作文、

発表あるいはディベートしてもらったりします。私の専門領域は「心理言語学」ですので、中国語で行うこの講義では、言語の処理はどういう仕組みからなるのか、また、バイリンガルあるいはトライリンガル話者はどのように文を処理しているのか、という問いから始まり、それに関する最先端の研究成果を学生に中国語で発表してもらうことで、中国語で高度な専門知識を身につけるだけでなく、適宜議論できることを目標としています。さらに、心理言語学で現在主に使われている実験手法を紹介したり、実験室を見学したり、データ収集がどのように行われているのか、具体的にイメージできるようにしています。最後に、今まで身につけてきた知識を自分自身のことと照らし合わせながら、実験案を提出させています。そこで、私が驚いたのは、受講生のみなさんが、実際に中国語で話すときに、日本語より英語の影響が多く現れている原因について、三つの言語の統語的な特徴の類似性の観点からレポートをまとめたことです。私はこれからも、こうした学生の可能性に期待しています。

取得すべき単位数

(セマスターごとの入れ替えの際に一定のレベルを満たしているみなさん新しく編入される学生についてはこの限りではない)

科目名	1年				2年	
	文科生		理科生		文科生	理科生
	Sセマスター	Aセマスター	Sセマスター	Aセマスター	Sセマスター	Sセマスター
基礎科目 一列・二列	4	2	4	2	—	—
総合科目 演習 (TLP用)	2	2	—	—	—	—
総合科目 初級インテンシヴ (TLP用)	4	4	4	4	—	—
総合科目 初級表現演習 (TLP用) ※1	—	—	(2)	(2)	—	—
総合科目 中級インテンシヴ (TLP用)	—	—	—	—	4	4
総合科目 中級演習 (TLP用) ※2	—	—	—	—	2	(2)
国際研修 サマースクール ※3	—	—	—	—	(2)	(2)
取得すべき単位数 ※3	10	8	8	6	6	4

※1 1年理科生の初級表現演習は任意選択であり、取得すべき単位数は文系より合計4単位少ない

※2 2年理科生の中級演習は任意選択であり、取得すべき単位数は文系より合計2単位少ない

※3 国際研修およびサマースクールは任意選択

TLP中国語研修

大学院総合文化研究科附属グローバルコミュニケーション研究センター 李彦銘

新型コロナウイルスの大流行によって、南京研修は3年連続でオンライン開催となりました。前例が（おそらく今後も）ないことなので、オンラインならではの発見や学生・教員の努力を記録して報告したいと思います。

まず語学学習におけるメリットですが、対面よりは聞き取りがとりわけしやすい、そして質問がしやすい、写真やホームページなどを共有・活用しや

すい点が挙げられるなど、一般的なオンライン授業と同じ利点がありました。また、中国語の授業が午前中に集中していたため、学生によっては午後や夜の時間を利用して部活またはアルバイトと両立できたそうです。

ただ現地開催の研修に及ばない点はやはり多々ありました。参加者の確保が最初の困難というべきでしょうか。実際には2021年と2022年ともに参加者が12名しかおらず、定員の20名より大幅に下回りました。それでも南京大学側の手厚い対応を受け、ふたクラスに分けて授業の実施ができました。個人的な感想としては、ひとクラス6人という極小人数になった分、学習効果が高くなりました。三週間に渡る研修中、学生もずっと高い学習意欲を保つことができたという印象がありました。

ほかにもいろいろ試みがありました。体を動かす機会を増やす要望に応じて2021年度の研修は午後には太極拳の授業を追加してもらいました。南京大学の学生の考案でライブ配信の形でキャンパスや南京市内の案内も実施されました。最後の2022年度は、東大側が4月から対面授業に戻ったこともあり、午後の時間帯の活動を大きく変えました。例年では南京大学講師による専門性の高い中国語講義が複数回に開催されてきましたが、それを取りやめにし、代わりに東大生が自主的に企画した活動が行われました。漢詩勉強会や映画鑑賞会、湯島聖堂など中国と縁がある場所を回る会など、現地開催に及ばない程度ですが、学生間の交流と親睦が深められました。一方、南京大学の学生と高校生との交流はzoom越で数回開催されました。

来年は南京で実施を期待しております。さまざまな環境が急激に変化するなか、やはり自ら現地に赴き、肌で感じられる現地研修のほうが鋭い感覚の訓練と問題意識の発見には適していると思います。



南京大学構内の黒板・卒業記念の落書き



2021年修了式&「漢語秀」プログラム



2022年度の始業式

受講生の声

素晴らしい友と充実した語学ライフを楽しむ



こんにちは、工学部社会基盤学科に内定した松本翔龍と申します。私は中国が身近な存在であるという理由で、第二外国語は中国語を選択しました。日中英の言語を自由に使えるようになりたかったので、「無謀だけどできたらいいな」と軽い気持ちでTLP中国語に申し込みました。結果、駒場で受けた数々の中国語の授業や国際交流活動でたくさん刺激を受け、良い経験になりました。

中国語の文法は英語と似ていて簡単である反面、漢字の学習に苦労しました。TLPの学生は

非常に優秀で、語学力の差に悲観することはよくありましたが、お互い助け合って切磋琢磨して学習することができました。また、私は昔から洋楽が好きで、海外経験豊富なTLP生とは気が合いとても仲良くなれました。このような素晴らしい環境に運良く恵まれたことに感謝しています。

振り返れば私の語学ライフは非常に充実していたと思います。オンライン開催でしたが、長期休みを利用して台湾研修・南京研修に参加して学習を深めました。表現力が格段に向上しただけでなく、中国文化や歴史に対する理解がより一層深まりました。私の前期教養を一言で言い換えるとするならば、迷わず中国語と答えるで

理科二類・2年 松本翔龍 (2022年度)

しょう。

中国語学習は始まったばかりです。今まで習ったことを忘れず、TLP中国語で出会った人々との縁を大切にして、中国語の学習を継続させていきたいです。私の代は現地への渡航が叶わなかったため、いつか自分で機会を作って中国へ赴き、学びたいと強く思います。

最後に、新型コロナウイルスの感染状況が一進一退する難しい状況の中、中国語を教え、学生のために講演会や交流会を用意してTLPをより充実したものになろうと日々尽力された先生方に感謝を述べたいと思います。ありがとうございました。

ロシア語

TLP授業の POINT

ロシア語は、その覚えることの多さから特に最初の初級段階が重要です。皆さんの学習の牽引役でもあり、サポーターでもあります。

大学院総合文化研究科・言語情報科学専攻 鳥山 祐介



[Profile]

ロシア文学、文化史を研究しています。ソ連崩壊でロシアがメディアで盛んに話題になっていた時期に真剣にロシアに関心を持ち始めたのですが、これが途方もなく取り組み甲斐のあるテーマであったことを年を経るごとに実感しています。

駒場に赴任して以来、TLPの授業は毎年受け持ってきました。初級文法の授業で用いる教科書や教える内容は他のクラスと同じなのですが、教室に漂う独特の緊張感からは毎回楽しい刺激を受けてきました。全体の時間割としてはTLP生は独自のものに基づいて授業を履修します（1年次のSセメスターでは文科生が週5コマ、理科生は4コマ、Aセメスターではそれぞれ4コマ、3コマとなります）。特にネイティブ教員による会話の授業が多く課されているため、読み書きと口頭コミュニケーションの双方における高い能力を最初の段階から追求することになります。2年次ではSセメスターで全員が3コマ履修となり、基礎文法の知識の確立と、会話なども含めた総合力の向上を図ります。2年次Aセメスターになると、辞書さえあれば専門的な内容の論文、メディア記事、文学作品なども読めるレベルになります。コロナ禍に続き、ロシアのウクライナへ

の侵略戦争の開始に伴って方向転換を強いられた海外研修も、ここへきてようやく再開となりました。

ロシアという国、そしてそこに暮らす人々について知ることが世界にとっても日本にとっても長期的な重要課題となる中で、ロシア語の知識は世界を幅広い視野で見するための貴重な手段となります。文理を問わず、様々な専門分野でロシア語を駆使できる人が社会の構成員として活躍することが、今後の日本社会およびその外に生きる人々にとって重要であることは間違いありません。もちろん、そうしたことはロシア語で発信される情報を無条件に信頼することと決してイコールではありません。ロシア語と同時に英語についても高い能力を追求し、その積極的な運用を促すというTLPロシア語のコンセプトは、ネット時代の適切なメディア・リテラシーという観点からもきわめて大きな意味を持っています。

取得すべき単位数

(セメスターごとの入れ替えの際に一定のレベルを満たしているときみなされて新しく編入される学生についてはこの限りではない)

科目名	1年		2年
	Sセメスター	Aセメスター	Sセメスター
基礎科目 一列・二列	4	2	—
総合科目 演習 (TLP用) ※	2	2	—
総合科目 初級・中級インテンシヴ(TLP用)	4	4	4
総合科目 ロシア語上級	—	—	2
取得すべき単位数	10	8	6

※ 理科生の演習は任意選択であり、取得すべき単位数は合計4単位少ない

TLPロシア語研修

大学院総合文化研究科・言語情報科学専攻 鳥山 祐介



イエレヴァン大学でのロシア語研修

2022年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻の影響により、例年ロシアのサンクトペテルブルクで行っていた研修の継続が難しい状況となったため、TLPロシア語は新たな行き先を探すことを余儀なくされました。ロシア語の教育体制が整っていることを第一の条件としてさまざまな候補を検討した結果、最終的に2022年度にはアルメニア共和国のイエレヴァン大学で研修を実施することになりました。

「文明の十字路」と呼ばれるコーカサスに位置し、独自の文化的アイデンティティを持ちながら、近代以降はロシアとも深い関係にあったという歴史的経緯から今もロシア語が広く通じるアルメニア。この地でロシア語を学ぶことは、国家と言語、文化との一筋縄ではいかない関係を肌で感じる機会にもなるはず。研修ではロシア語の授業に加え、現地の学生との交流やロシア語を使った発表の場、さらに

アルメニアの文化や自然に触れる場も設けられています。ロシア語を学ぶことによって自分の世界が広がっていく様を実感することも研修の目的の一つです。



マテナダラン（古文書館）訪問



エチミアジン訪問



ロシア・アルメニア大学での発表



サグモサヴァンク修道院に向かう



受講生の声

手厚いサポートが受けられるTLPコースは語学習得に大変有効でした

理科一類・2年 江波 駿介 (2022年度)

ロシア語を選んだのは、趣味とするクラシック音楽の中で特にショスタコーヴィチやプロコフィエフなどロシア圏の作曲家に興味を持っていたから。TLPを修了した今では、辞書を片手にロシア音楽に関する文章を原語で読むことが余暇の楽しみの一つとなっています。

ロシア語は活用の多さや特殊な文法規則などが厄介で、私自身はかなり習得に苦労しましたし、今でも単語を覚えることは苦手です。しかしネイティブの講師による会話・作文の指導や2年次からの論文購読授業など、TLPでは教育体制が充実していたため、一つ一つ着実にロシア語の能力を伸ばすことができたという実感は強く持っています。またロシア語はTLP履修者が10

人前後と少なめであるため肌理細やかな語学指導を受けることができ、少人数で切磋琢磨しながら学習を続けられました。授業後に昼食を食べながら同期たちとロシアの政治問題や文化について語り合ったことも、前期教養課程のかけがえない思い出の一つです。

ロシアによるウクライナ侵攻の影響で、海外研修の滞在先は旧ソ連圏のカフカスの小国アルメニアになりました。独立から30年余が経過し公用語はアルメニア語のみである同国ですが、大学などの学術機関のみならず巷間の生活でも未だにロシア語がよく使われています。ロシア語のみで開講される授業、現地学生やガイドやスーパーの店員との会話など、ロシア語で考え話す二週間の集中的な実践を積むことができました。また授業後のエクスカージョンでは

未知の国アルメニアの苦難の歴史や豊かな伝統文化などについて学び、異文化の価値観や生活観を体感できたことも研修の貴重な実りの一つです。感染症蔓延と軍事侵攻という度重なる障害にもかかわらず語学研修を実施して下さった関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

苦しい思いをすることもあるかと思いますが、語学に興味を持つ人であればTLPで外国語を学ぶ1年半は必ずや充実したものになるでしょう。私は2年次に理科一類から文転して後期教養学部に進学しましたが、TLPを通じて言葉と戯れることの楽しさを再確認したことは間違いなく私の決断に大きな影響を与えました。貴重な経験を求めて、チャンスがある人は是非受講してみることをお勧めします。

韓国朝鮮語

TLP授業の POINT

言葉がうまくなることはもちろんですが、言葉を使って多様な人々とコミュニケーションし、協働する力を養うことが目標です。

大学院総合文化研究科・言語情報科学専攻 三ツ井 崇



[Profile]

朝鮮近現代史の専門で、とくに19世紀後半以降現代までの言語や文化の問題を政治史・社会史と関連づけて考えています。例えば、「韓流」以前の朝鮮半島の文化がどのように形成、受容されてきたかを調べることにより、現代の交流と葛藤の意味が見えてきます。

今日、日本と大韓民国（韓国）・朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）との関係は、交流しないしは葛藤の局面にあり、しかも朝鮮半島情勢は世界規模の関心事となっています。日韓間の人の往来も普通になり、韓国の歌や映画も身近なものになりました。けれども、日本で韓国朝鮮語ができる人はまだまだ少数です。

一方、昨今の東アジア情勢を見ると、地域の持続的発展を考えていく際には、グローバルな視点とともに、朝鮮半島の持つローカルな特性に対する深い理解が求められます。TLP韓国朝鮮語は、一定レベルの英語能力を持つ学生が1年次、2年次に集中的に韓国朝鮮語を学習することによって、高度な韓国朝鮮語能力を身につけるとともに、日本と朝鮮半

島が位置する東アジア地域を足場に、グローバルな課題に取り組む人材となることを目的としています。

TLP韓国朝鮮語では、基礎科目（必修）の初修韓国朝鮮語一列、二列はクラスごとの通常授業を受講します。それ以外にTLP用の演習と初級インテンシヴ2コマ、計3コマを受講し、より高度な能力を身につけます。2年次の5 SemesterでもTLP用の演習と中級インテンシヴ2コマを受講した後、夏休みを利用してソウル大学で語学研修を行います（3週間）。語学研修では語学学習のほかにソウル大生とともにフィールド・ワークなどの現地体験も行いますので、韓国朝鮮語を実際に使いつつ、韓国の社会や文化について学ぶ機会となります。



受講生の声

アットホームな雰囲気、楽しく韓国語を身につけることができました

私はもともと、当時好きだったK-POPアイドルの会話や歌が少しでも理解できたら嬉しいと思い韓国語を選択しました。

その後、韓国語を勉強していくうちに韓国語の魅力に引き込まれTLPに編入することになりました。

TLPの授業は、普通の必修の授業よりもレベルの高い学習をすることができるので、必修の授業内容はTLPに比べて簡単に感じましたし試験も良い成績を取ることができました。進学振り分けで高得点を狙っていた私としてはTLPの授業は大変有意義でした。もちろん、そういった

打算なことだけでなく、純粋にレベルの高い授業を受けて韓国語について詳しくなり充実感も感じる事ができました。その大きな理由として、人数が少なく学生同士の仲がよく、そして先生との距離が近かったことが挙げられると思います。人数が少ない分あてられる回数も多いため、オンラインにも関わらず授業に集中して参加することができ、課題は一人一人細かい添削までしていただきました。TLP以外の外国語の授業でこういった経験はなかなかできないと思います。また、先生がK-POPの曲に出てくる韓国語の表現を紹介してくださったのは今でも印象に残っています。

理科二類・2年 村上 友哉（2021年度）

2年の5 SemesterでTLPは週に3コマの授業がありましたが、2Sは理系でも必修科目が少ないので、TLPの負担がきつと感じることはほとんどありませんでした。課題も毎回出ませんでしたし、課題の添削を毎回丁寧にしてくださるのでこちらもやる気を持って課題に取り組むことができました。

3年生になった今、残念ながら以前ほど韓国語の勉強はできていません。専攻が決まっていない、1、2年生の時期だからこそ、第2外国語の勉強に多くの時間を割くことができ、そして、TLPの充実した授業を受けられてとても良い経験になりました。

取得すべき単位数

（Semesterごとの入れ替えの際に一定のレベルを満たしているとみなされて新しく編入される学生についてはこの限りではない）

科目名	1年		2年
	S Semester	A Semester	S Semester
基礎科目 一列・二列 ^{※1}	4	2	-
総合科目 演習（TLP用） ^{※2}	2	2	2
総合科目 初級・中級インテンシヴ（TLP用）	4	4	4
取得すべき単位数	10	8	6

※1 通常の一列・二列の学生と一緒に受講

※2 理科生の演習は任意選択であり、取得すべき単位数は合計6単位少ない



文化体験

スペイン語

TLP授業の POINT

TLPでの集中的・継続的なスペイン語学習は、日本の外へとつながる、予想もしなかったような道すじをひらいてくれます。

大学院総合文化研究科・地域文化研究専攻 棚瀬 あずさ



[Profile]

ラテンアメリカの文学を研究しています。マドリッドに5年間留学していました。はじめてスペイン語圏に興味を持ったのは、14歳のとき、ピアソラを聴いたことから。

2019年からTLPに加わったスペイン語は、征服者たちの言語として新大陸に広まり、いまでは4億人以上の母語話者をもつようになりました。米国にヒスパニックやラティーノと呼ばれる人々が増加していることから、スペイン語の歌詞を取り入れたポップミュージックが世界的にヒットすることも増えています。じつに広範囲にわたるスペイン語圏のなかでは、語彙や発音、そして時には動詞の活用においてさえ、各地の文化と密着したかたちで異なるさまざまな「スペイン語」が用いられています。TLPでの学習を通じて、そんなスペイン語の多様性に触れ、世界の広さ、文化の奥深さを感じてみませんか？

TLP生は、必修スペイン語に加えて、「TLP演習」と「TLPインテンシヴ」（原則としてネイティブ教員が担当）の授業を週計3コマ受講します。必修科目では文法や表現の基礎を、TLP科目ではいっそうの実践力や、文化や歴

史に踏みこむ高度な知識を、身につけられます。2年生の夏休みには国外研修を行ない（これまではメキシコへ行ってきました）、その土地の空気を吸いながら、現地の大学生と交流したりしてスペイン語漬けの生活を送ります。

語学はそこまで得意じゃないし……という方もいるかもしれません。でも、いま駒場でスペイン語を教え、研究のために日々外国語を使っている私も、むかし駒場生だったころには、語学が得意だなんてまったく思っていなかったんです。話すのが好きな人。書くこと、読むことのほうが好きな人。いろんな人がいます。集中的・継続的に学んでいくと、自分なりの外国語とのつきあいかたが見えてきて、日本の外へとつながる、予想もしなかったような道すじをひらいてくれる。外国語に向きあうことにはそんな魅力があると思いますし、TLPはそのような機会を与えてくれる素晴らしいプログラムだと確信しています。



スペイン・サラマンカのマヨール広場



植民地時代の教会が多く残る
ニカラグア・レオンの街並み



2022年のメキシコ研修にて

取得すべき単位数

(セメスターごとの入れ替えの際に一定のレベルを満たしているときみなされて新しく編入される学生についてはこの限りではない)

科目名	1年		2年
	Sセメスター	Aセメスター	Sセメスター
基礎科目 一列・二列※	4	2	—
総合科目 演習 (TLP用)	2	2	2
総合科目 初級・中級インテンシヴ(TLP用)	4	4	4
取得すべき単位数	10	8	6

※ 通常の一列・二列の学生と一緒に受講

後期TLPについて

後期TLPは、中国語（日英中のトライリンガル）のみ2015年度から実施してきましたが、2020年度からは、「東アジア教養学」プログラムにアップグレードして新規開設しました。これは、前期TLP修了者と同等（もしくはそれ以上）の言語スキルを持つ学生を対象に、「東アジア発のリベラルアーツ」形成を旨とする北京大学とのジョイントプログラムです。北京大学との交換留学を組み込み、言語的背景の異なる学生がいっしょに同じテキストを読みながら、問いを開く学問を築くことを目指しています。

「東アジア教養学」では、英語、中国語、日本語を使用言語とする授業を常にか開講しています。所定単位を取得することによって、「東アジア教養学」の修了資格を得ることができます。また、共通外国語では、中国語の上級会話、上級講読といった授業が、前期TLP修了生もしくはそれと同等以上のレベルを有する学生全体を対象にか開講されていて、中国語の更なるブラッシュアップをめざす学生の誰もが履修できるように設計されています。

なお、後期TLPは2020年度より東アジア藝文書院（EAA）が運営主体となり、さらにプログラムの内容を発展させています。



TLPの英語

トライリンガルの一翼を担う英語ですが、その教育プログラムは英語一列、英語二列、総合科目L系列で構成されています。TLPに特化したクラスはありませんが、TLP履修生は英語のみで授業を行うクラスで英語一列を受講します。

英語一列（必修）：教養英語

教養学部英語部会が英語学習のために作成した『教養英語読本Ⅰ・Ⅱ』と、これに関連したリスニング教材を使用して行う授業です。文科生、理科生を問わず大学生の知的関心に応じた高度で分野横断的な内容を英語で理解する力を養います。授業は習熟度別クラスで行われます。TLP履修生は、内容理解の他に作文やディスカッションなどの発展的作業をすべて英語で行う20名程度のクラスで授業を受けます。

英語二列（必修）：ALESS、ALESА、FLOW

ALESS、ALESА、FLOWは発信力に重点を置く科目です。15名程度の少人数クラスで、英語だけで授業を行います。

ALESS（Active Learning of English for Science Students）では、理科生が、自ら設計した実験を行って、その結果に基づいて科学論文を書くことを学びます。一方、ALESА（Active Learning of English for Students of the Arts）では、文科生が、先行文献を調べ、それを適切な形で援用しながら説得力のある人文・社会科学系の論文を書くことを学びます。

FLOW（Fluency-Oriented Workshop）は、研究成果について英語で口頭発表したり、論理的な議論を展開したりできるような流暢なスピーキング力を鍛える授業です。自己診断に基づく習熟度別クラス編成を採用しています。

総合科目L系列（選択必修）

中級クラスと上級クラスが設けられています。多彩な内容のクラスから各自が選択することができますが、「英語上級」は20名程度のクラスで、英語圏の大学で専門科目の授業を受講できるレベルの英語力を念頭に置いた授業を行います。





Trilingual Program

©2023 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属 グローバルコミュニケーション研究センター

令和4年度教授会慶弔費支出報告

収 入 の 部	支 出 の 部		
・前年度繰越金 939,343円	・慶弔関係 16,885円		
・利 息 7円	・式典、行事等 285,000円		
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: right;">計 939,350円</td> <td style="width: 50%; text-align: left;">計 301,885円</td> </tr> </table>		計 939,350円	計 301,885円
計 939,350円	計 301,885円		

[参 考]

- *慶弔関係 1件
- *式典、行事等 1件

*令和5年度への繰越金 637,465円

東京大学大学院総合文化研究科・教養学部駒場ファカルティ・ハウス規則 (案)平成 17 年 3 月 17 日 制定令和 5 年 〇 月 〇 日改正教授会可決

(趣旨)

第 1 条 この規則は、東京大学大学院総合文化研究科・教養学部駒場ファカルティ・ハウス（以下「駒場ファカルティ・ハウス」という。）の管理運営に関し基本的な事項を定める。

(駒場ファカルティ・ハウスの目的)

第 2 条 駒場ファカルティ・ハウスは、学術の国際的交流を図り、東京大学大学院総合文化研究科・教養学部及び大学院数理学研究科（以下「研究科等」という。）の教育研究の発展に資することを目的とする。

(施設)

第 3 条 駒場ファカルティ・ハウスにセミナー室、教養室（和室）、宿泊室、食堂その他の施設を置く。

(開館日)

第 4 条 駒場ファカルティ・ハウスは、別に定める日を除き毎日開館する。

2 大学院総合文化研究科長が必要であると認める場合には、前項の規定にかかわらず臨時に開館し又は閉館することができる。

(駒場ファカルティ・ハウスの利用)

第 5 条 駒場ファカルティ・ハウスの利用については、別に内規で定める。

(利用者の範囲)

第 6 条 駒場ファカルティ・ハウスを利用することができる者は、研究科等の教職員及び別に定める者とする。

~~-(管理)-~~~~第 7 条 駒場ファカルティ・ハウスの事務は、事務部研究支援室において処理する。~~

(運営委員会)

第 ~~7-8~~ 条 駒場ファカルティ・ハウスの運営に関する重要事項を審議するため、東京大学大学院総合文化研究科・教養学部駒場ファカルティ・ハウス運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関して必要な事項は、別に定める。

(庶務)

第 8 条 駒場ファカルティ・ハウスの庶務は、事務部経理課研究支援チームにおいて処理する。

(補則)

第 9 条 この規則に定めるもののほか、駒場ファカルティ・ハウスの運営に関し必要な事

項は、運営委員会の議を経て大学院総合文化研究科長が定める。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和5年〇月〇日から施行する。

4. 各学科等教務関係内規

(令和5年4月以降の進学生に適用する。)

<省略>

(4) 学融合プログラム

1. 単位の認定

単位の認定は、セメスターごとに行われ、セメスター当初に届け出た科目名によって行う。

2. 履修科目の届出

- (1) 指定する期間内に、所定の方法により履修科目の登録をしなければならない。
なお、登録をしない科目については、聴講及び修了試験の受験資格がない。
- (2) 登録後の履修科目の追加及び変更については、これを認めない。

3. 重複履修

同一科目の重複履修については、これを認めない。

4. 科目の履修について

教養学科、学際科学科または統合自然科学科の卒業要件を満たした上で、以下に定める単位を取得した者には、当該プログラムの修了を認定する。

- (1) グローバル・エシックスプログラム、進化認知脳科学プログラム、科学技術インタープリタープログラム、東アジア教養学プログラム
認定を求めるプログラムの科目から14単位以上
- (2) グローバルスタディーズプログラム
当該プログラムの科目から14単位以上（授業科目群ごとに定められた「取得すべき最低単位数」を含む。）
 - ① 高度教養科目の後期国際研修を2単位以上取得するか、留学又は休学期間中の海外修学により取得した単位で、単位認定申請により海外研修I～IVのいずれかに認定された単位を2単位以上含めること。
 - ② ①の規定にかかわらず、海外で自ら体験活動プログラム等に参加した者は、グローバル教養実践演習、グローバル教養特別講義I～III又はグローバル教養特別演習I～Vのいずれかを2単位取得することによって、後期国際研修又は海外研修2単位の代替とすることができる。希望者は、所定の期間内にグローバルスタディーズ委員会に申し出るとともに、グローバルスタディーズ委員会による審議を経て承認を得る必要がある。
 - ③ グローバル教育センターの提供するグローバル教養科目群を、グローバル教養特別演習I～Vのいずれかの代替とすることができる。

国際交流協定覚書締結計画書

提出年月日：2023/4/20

担当部局：総合文化研究科

1.相手大学(機関)			
名称	日本語	インドネシア教育大学	
	英語	Indonesia University of Education	
	当該国語 ※任意	Universitas Pendidikan Indonesia	
地域/国名	アジア	インドネシア	
設立年	1954	年設立	
設置形態	公立		
URL	https://www.upi.edu/		
組織及び規模(学部・研究所、学生・研究者の数等)	文系・理系の8学部で学部教育と大学院教育を行っている。 教員数：1,499人、学生数：約35,000人、職員数：2011人		
相手国内における大学(機関)としての評価	インドネシア教育大学(旧バンドン教育大学)はインドネシアでもっとも古い教育大学で、現在インドネシアを代表する有力大学との評価があり、国内の大学ランキングは第4位である。		
その他 (特色等があれば記入)	もともと教師養成大学として設立されたが、現在はインドネシア政府の特別自治権を有する数少ない公立の総合大学となっている。独立行政法人化の際、インドネシアの教育大学は名称を変更したが、この大学のみ「教育」を名称に残している。		
2.交流目的			
文系・理系両方の分野で、総合文化研究科の研究者とインドネシア教育大学の研究者との共同研究や研究協力を推進し、研究水準のよりいっそうの向上と国際化を図ることを目的とする。			
3.協定の内容			
希望する協定の種類			
部局協定	関係部局： 協定名(日)： 協定名(英)：	Agreement on Academic Exchange Between Graduate School of Arts and Sciences, College of Arts and Sciences, the University of Tokyo and Indonesia University of Education	
▼協定の種類	関係部局： 協定名(日)： 協定名(英)：		
交流分野			
双方が関心を持つ分野			
交流内容(該当するものに○)			
学生交流	<input type="radio"/>	講義、講演、シンポジウムの実施	<input type="radio"/>
教員・研究者交流	<input type="radio"/>	学術情報及び資料の交換	<input type="radio"/>
職員交流	<input type="radio"/>	その他	→()
単位互換			
ダブル・ディグリー		→取得できる学位の種類：	
ジョイント・ディグリー		→取得できる学位の種類：	
共同研究	<input type="radio"/>		
受入に伴う奨学金支給			
授業料相互不徴収		→人数(年)： 人(学期)[学部生/大学院生]	

4.期待される成果	
<p>総合文化研究科もインドネシア教育大学も文系・理系両方の研究領域をカバーしており、教員同志のバランスの取れた研究交流が期待できる。インドネシア教育大学は、インドネシア教育文化省による大学国際競争力強化プログラムに呼応して、現在、所属教員が海外のトップ100の大学で3ヶ月から4ヶ月間、共同研究を通じて研究指導を受けることを積極的に推進している。本研究科においては、文系では東南アジア関係の研究にとって貴重な研究協力が期待される。理系についても研究テーマが一致すれば研究室運営にとってもプラスに働くことが期待される。本学には東南アジアではタイにオフィスがあるのみで、ASEANの大国・インドネシアにはまだ研究拠点がなく、本協定を締結することで、西ジャワにおいて実質的な研究拠点を獲得することになり、本研究科のみならず大学全体にとっても多いに貢献することが期待できる。</p>	
5.これまでの経緯(これまでの準備状況、交流実績等)	
<p>総合文化研究科の谷垣真理子教授とインドネシア教育大学のディアニ・リスダ講師は、ユーラシア財団from Asia (旧ワンアジア財団)の助成を受けて、2012年頃からアジア共同体に関しての授業運営に携わってきた。同財団は1年に1度、授業助成関係者を招待してのコンベンションを実施しており、両名はそれを通じて交流を重ねてきた。2019年に谷垣教授がリスダ講師の招聘を受けてバンドンのインドネシア教育大学とバスマン大学、スマトラのバンカプリトゥン大学で講義し、2020年から谷垣教授はリスダ講師を誘って英語の論文集発行を企画し、2022年3月にSpringerより「Japan and Asia」を刊行した。2022年9月から、谷垣教授が受入れ教員となってリスダ講師がインドネシア教育大学の国際協力強化プログラムで来日し、駒場で研究を進めた。この間、谷垣教授はインドネシア国家警察改革への日本警察の支援プログラムについて、リスダ講師から研究協力を得た。これらの長年に渡る交流を基に双方の間で学術交流協定を締結する話が出てきた。先方側は学長も合意している。</p>	
6. 締結までのスケジュール(締結希望時期等)	
<p>2023年1月中に国際交流締結計画書を作成し、インドネシア教育大学側と学術交流協定書の内容について協議する。2023年4月までに、総合文化研究科の国際交流・留学生委員会、総務委員会、教授会に諮り、部局承認を得る。2023年4月以降なるべく早い時期に双方が署名する。</p>	
7.実施責任体制(組織、担当教員名及び構成メンバー等)	
<p>責任者：真船文隆（総合文化研究科長・教授） 幹事教員：谷垣真理子（総合文化研究科・教授） 岡田泰平（総合文化研究科・教授）</p>	
8.相手側の対応組織(担当教員名等)	
<p>責任者：Prof. Dr. H. M. Solehuddin, M.Pd., MA. 幹事教員：Prof. Dianni Risda, Faculty of Language and Literature Education</p>	
9.資金計画	
<p>共同研究・研究協力については、それぞれ計画を主導する教員が資金計画を立てるものとする。日本側については、日本学術振興会の短期研究者招聘事業に応募する。また、谷垣教授はインドネシア側との共同研究を実施するために、科学研究費の基盤Bもしくは基盤Cへの応募を検討中である。インドネシア側はインドネシア教育文化省の大学国際競争力強化プログラムに応募して、渡日する研究者の渡航費・滞在費(月額17万円程度)を確保する。なるべく早く派遣者を決定して、本学のインターナショナルロッジに応募して、滞在費を有効に使うよう、選考プロセスを進める。</p>	
10.同一校(機関)との交流の有無	
<p><input type="checkbox"/> 有 協定の種類：▼協定の種類 担当部局：▼部局名選択 締結年月： (最終更新年： 年)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 無</p>	
11.その他特記事項	
12.部局事務担当	
部局名：	総合文化研究科
係名：	国際研究協力室
Email：	irco-komaba@adm.c.u-tokyo.ac.jp

AGREEMENT ON ACADEMIC EXCHANGE
BETWEEN
GRADUATE SCHOOL OF ARTS AND SCIENCES,
COLLEGE OF ARTS AND SCIENCES,
THE UNIVERSITY OF TOKYO
AND
UNIVERSITAS PENDIDIKAN INDONESIA

The Graduate School of Arts and Sciences, the College of Arts and Sciences, the University of Tokyo (Japan) and Universitas Pendidikan Indonesia (Indonesia) (hereinafter referred to as the “parties”), in the firm conviction that academic exchange between the parties will promote academic research and other activities, hereby conclude the following Agreement.

Article 1. The parties agree to implement exchanges and other activities in areas of academic research of mutual interest through the following.

- (1) Exchange of faculty and administrative staff and researchers.
- (2) Exchange of students.
- (3) Conducting collaborative research.
- (4) Holding joint lectures and symposia.
- (5) Exchange of academic information and materials.

Article 2. Actual projects to be implemented for the realization of specific exchange activities as defined in the preceding article shall be decided through discussion between individual departments of the parties.

The activities specified under the preceding paragraph shall be carried out in compliance with laws and regulations to be followed by the parties concerned.

Article 3. In the case that research results impacting upon matters of intellectual property rights are expected to arise in the course of collaborative projects carried out under the terms of Article 1 above, the parties shall discuss in good faith and agree in a separate document the conditions regarding the treatment of intellectual property rights so arising, prior to the start of the collaborative project in question and in accordance with the policies of each party.

Article 4. This Agreement is valid for five years effective from the date of the final signature affixed below by the parties hereto (hereinafter referred to as the “term”). The term of the Agreement may be extended upon agreement by the parties. Either party may terminate the Agreement during its term by giving six months advance written notice to the other party.

Article 5. This Agreement is created in duplicate in English, each of those duplicates being deemed original.

The parties hereby establish this Agreement by duly signing it, as of the respective dates below.

The University of Tokyo
Graduate School of Arts and Sciences
College of Arts and Sciences

Universitas Pendidikan Indonesia

Prof. Dr. MAFUNE Fumitaka
Dean

Prof. Dr. H. M. Solehuddin, M.Pd., MA.
Rector

_____/_____/_____

_____/_____/_____
